

# 立川市新校舎建設マスタープラン

平成29年3月

立川市



# — 目次 —

## 第1章 学校統合に向けた取り組みの概要

- 1-1 学校統合と新校舎建設の経過等・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 1-2 新校舎建設マスタープランについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 1-3 スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

## 第2章 計画対象校と周辺公共施設等の現状

- 2-1 けやき台小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
- 2-2 若葉小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
- 2-3 周辺公共施設等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

## 第3章 計画条件

- 3-1 計画敷地の条件整理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
- 3-2 通学区域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
- 3-3 計画敷地の周辺状況と樹木状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
- 3-4 児童数・クラス数の推計と新校舎の計画学級数・・・・・・・・・・23
- 3-5 その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

## 第4章 基本理念と計画の方針

- 4-1 新校舎に関する意見の整理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
- 4-2 学校づくりの理念と4つのコンセプト・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
- 4-3 計画の方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

## 第5章 計画建物の概要

- 5-1 諸室一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
- 5-2 室構成の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

## 第6章 配置計画・施設構成

- 6-1 配置計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
- 6-2 平面計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
- 6-3 防災拠点としての計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
- 6-4 防犯計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
- 6-5 環境への配慮・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
- 6-6 ユニバーサルデザイン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53

## —あとがき— 立川市の学校づくりと新校舎建設に向けて

新校舎建設マスタープラン検討委員会委員長 長澤 悟・・54

## 資料

- 資-1 アンケートとワークショップの集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・57
- 資-2 子どもたちの新しい校舎のイメージ（抜粋）・・・・・・・・・・・・76
- 資-3 視察校報告（川崎市立はるひ野小学校・はるひ野中学校）・・・・78
- 資-4 新校舎建設マスタープラン策定までの検討経過・・・・・・・・・・・・81



## 第1章 学校統合に向けた取り組みの概要

### 1-1 学校統合と新校舎建設の経過等

#### (1) 経過について

平成27年3月議会に「けやき台小学校と若葉小学校の統合及び新学校建設に関する請願」が提出され、採択された。教育委員会では、この採択された請願について、請願内容を踏まえ、対応方針を教育委員会や総合教育会議において慎重に協議した。

その結果、両校を統合することにより小規模校の様々な課題の解消につながるるとともに、新しい校舎ができることにより若葉町全体の活性化につながると考え、平成27年9月10日に教育委員会において、「けやき台小学校と若葉小学校を統合し新学校を設立する方針」を決定し、平成27年9月18日に「けやき台小学校の敷地に新校舎を建設する方針」を市長決定した。

#### (2) 児童数及び学級数の推移と就学予定数推計

平成32年度に、けやき台小学校と若葉小学校を合わせた児童数は、599人（20学級）となるが、平成35年度には、両校児童数（7歳～12歳人口）は480人まで減少することが予想され、平成35年度以降は両校ともに小規模校となることが予想される。

本市は子どもたちが学校生活で、豊かな人間関係を築き、社会性を培い、生きる力を身に着けるための望ましい小学校の適正規模について「立川市における小学校の学校適正規模の基本的な考え方」を定めている。また、児童が集団の中で多様な考えにふれ、協力し合い、切磋琢磨することを通じて問題解決能力等を育み、社会性や規範意識を身に着けるには一定の規模の児童集団が確保されていることが望ましいとの考え方等を文部科学省は「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」として定めている。これらの適正規模水準を保つためには統合を進める必要がある。

#### (3) 今後のスケジュール

平成30年3月にけやき台小学校と若葉小学校を閉校した上で、平成30年4月に両校を統合し新たな学校を設立する。新校の校舎については、平成30年度から32年度までは若葉小学校を暫定的に使用する。この間に、けやき台小学校を解体し新校舎を建設し、平成33年4月に建替えた校舎に移転する。

## 1-2 新校舎建設マスタープランについて

### (1) 概要

このほど策定した新校舎建設マスタープランは、けやき台小学校と若葉小学校の統合に伴い、建設する新校舎の基本構想となるものである。学校づくりの基本理念や配置案などを決めたもので、今後、新校舎建設マスタープランに基づき、平成29年度に基本設計を、平成30年度に実施設計を行う。新校舎建設については、平成30年度末に工事を開始し、平成33年3月に完成する。

### (2) 検討経過

新校舎建設マスタープランの策定にあたっては、学識者や地域団体等が推薦する方、公募市民、対象校の校長、副校長、学区内の中学校である第九中学校の校長らで構成する新校舎建設マスタープラン検討委員会を平成28年8月に発足させた。平成29年3月までに計9回開催し、新校舎に関する基本方針や配置等を検討した。

また、検討の中では、両校の児童及び保護者、若葉町地域の自治会長を対象に実施したアンケート、学校ヒアリング、両校の保護者を対象に実施したワークショップ、説明会を通して、両校の児童及び保護者、地域の方、教職員に意見聴取を行い、参考にした。

1-3 スケジュール

		平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
若葉小学校敷地 仮設校舎整備		設計・建設 				解体 
けやき台小学校と 若葉小学校の 統合		統合 	若葉小学校校舎と仮設校舎を利用			新校舎 を利用
新校舎 建設	設計	基本・実施設計 				
	新校舎建設		契約 	新校舎建設工事		
	校庭整備				校庭整備工事 	
	既存校舎 解体工事					

※ただし、埋設物や法令変更により工期が変更になる場合がある。

## 第2章 計画対象校と周辺公共施設等の現状

### 2-1 けやき台小学校

#### (1) 所在地

- ・けやき台小学校：立川市若葉町1丁目13-1

#### (2) 教育目標

- ・よく考える子
  - ・思いやりのある子
  - ・たくましい子
- 目指す児童像—
- ・輝くひとみ 笑顔あふれる けやきの子

#### (3) 学校の特徴

- ・集団での行動に落ち着きがあり、500人ちかい児童がマイクなしの講話を静かに聞くことのできる学校
- ・持久走やなわとび運動に学校全体で取り組み、健康増進に力を注ぐ学校
- ・異学年交流を大切にし、6年生が1年生を優しく面倒見ることのできる学校
- ・若葉町地区の他の学校(若葉小学校、立川第九中学校)と連携を深める学校
- ・地域の方々に見守られながら創立50年を迎えた学校

#### (4) 児童数、学級数、職員数

##### ①児童数・学級編成

(平成28年5月1日現在)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	きこえとことばの教室
児童数	79	76	84	73	87	94	493	68
学級数	3	3	3	2	3	3	17	5

※「きこえとことばの教室」は平成30年4月に第八小学校に移転する。

## ②職員数・構成

役職	人数	役職	人数
校長	1	事務職員	1
副校長	1	嘱託職員	1
通常学級教員	20	事務嘱託	1
特別支援学級教員	7	用務	1
養護教諭	1	用務嘱託	1
		計	35

## (5) 沿革

- 1966年（昭和41年） - 9月1日学校開設。10月3日入校式
- 1967年（昭和42年） - 校章制定。学研教育賞受賞
- 1968年（昭和43年） - 体育館・プール完成
- 1969年（昭和44年） - 給食開始。校歌制定
- 1970年（昭和45年） - けやき台学童保育所設置
- 1971年（昭和46年） - 立川市立若葉小学校設立に伴い、  
学区が若葉町1・2丁目に変更
- 1974年（昭和49年） - 飼育舎完成
- 1975年（昭和50年） - 創立10周年記念式典挙行
- 1976年（昭和51年） - 難聴学級である「きこえの教室」が開級  
(翌年「きこえとことばの教室」に改まる)
- 1985年（昭和60年） - 創立20周年記念式典挙行
- 1990年（平成2年） - 市制50周年記念タイムカプセル埋設  
(2040年開封予定)
- 1991年（平成3年） - 水生植物観察池完成
- 1995年（平成7年） - 創立30周年記念式典挙行
- 2005年（平成17年） - 創立40周年記念式典挙行
- 2015年（平成27年） - 創立50周年記念式典

## (6) 敷地面積・建物概要について

- ・敷地面積 : 15,977 m<sup>2</sup>
- ・校舎規模 : RC造/地上3階
- ・校舎面積 : 7,233 m<sup>2</sup>
- ・体育館面積 : 713 m<sup>2</sup>
- ・プール規模(大) : 25m×10m
- ・プール規模(小) : 6m×4m

(7) 各室の状況 1



図書室



図書室入口



図工室



図工準備室



音楽室



家庭科室

(8) 各室の状況 2



職員室



リラックスルーム



普通教室



男子トイレ



階段

## 2-2 若葉小学校

### (1) 所在地

- ・若葉小学校：立川市若葉町4丁目24-1

### (2) 教育目標 目指す児童像

- ・心豊かな子
  - ・自分の考えをもつ子
  - ・元気な子
- 目指す児童像 —
- ・心やさしく 瞳輝かせ  
学び合う学校

### (3) 学校の特徴

- ・外国語活動を1年生から実施している学校
- ・算数教室を2教室確保し、習熟度学習に力を入れている学校
- ・特別支援学級(たんぽぽ学級)を設置している学校
- ・異学年交流が盛んに行われている学校
- ・若葉町地区の他の学校(けやき台小学校、立川第九中学校)と連携を深める学校

### (4) 児童数、学級数、職員数

#### ① 児童数・学級編成

(平成28年5月1日現在)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	たんぽぽ学級
児童数	44	49	36	43	31	29	232	10
学級数	2	2	1	2	1	1	9	2

#### ② 職員数・構成

役職	人数	役職	人数
校長	1	事務職員	1
副校長	1	嘱託職員	1
通常学級教員	12	事務嘱託	1
特別支援学級教員	3	用務	1
養護教諭	1		
		計	22

## (5) 沿革

- 1970年（昭和45年） - 立川市教育委員会定例会で本校の設置決定
- 1971年（昭和46年） - 開校（児童数91名5学級）
- 1974年（昭和49年） - 飼育舎、水田完成
- 1977年（昭和52年） - 第二期増築工事（普通教室11）
- 1980年（昭和55年） - 創立10周年記念式典・祝賀会举行
- 1985年（昭和60年） - 小プール完成
- 1988年（昭和63年） - 心障学級（現特別支援学級）開級式（たんぽぽ学級）
- 1990年（平成2年） - 創立20周年記念式典・祝賀会举行  
市制50周年記念タイムカプセル埋設  
（2040年開封予定）
- 1999年（平成11年） - 体育館大規模改修工事完了
- 2001年（平成13年） - 創立30周年記念式典・祝賀会举行
- 2004年（平成16年） - 文科省[豊かな体験活動推進事業]推進校（2年間）  
東京都NIE推進協議会実践校（2年間）
- 2008年（平成20年） - ボランティア教育推進により東京都教育委員会  
団体表彰受賞
- 2009年（平成21年） - 高齢者への福祉活動により、東京都教育委員会児  
童・生徒表彰受賞  
みどり東京温暖化防止プロジェクト省エネチャレ  
ンジ特別賞受賞
- 2010年（平成22年） - 創立40周年記念式典・祝賀会
- 2016年（平成28年） - 高齢者への福祉活動により、東京都教育委員会児  
童・生徒表彰受賞

## (6) 敷地面積・建物概要について

- ・敷地面積 : 16,441 m<sup>2</sup>
- ・校舎規模 : RC造/地上4階
- ・校舎面積 : 5,905 m<sup>2</sup>
- ・体育館面積 : 737 m<sup>2</sup>
- ・プール規模(大) : 25m×10m
- ・プール規模(小) : 10m×4.5m

(7) 各室の状況 1



特別支援学級 合同学習室



特別支援学級 学習室-1



特別支援学級 教室内ロッカー



特別支援学級 プレイルーム



特別支援学級 職員室



特別支援教室(倉庫)

(8) 各室の状況 2



普通教室



算数教室



図書室



図書室入口



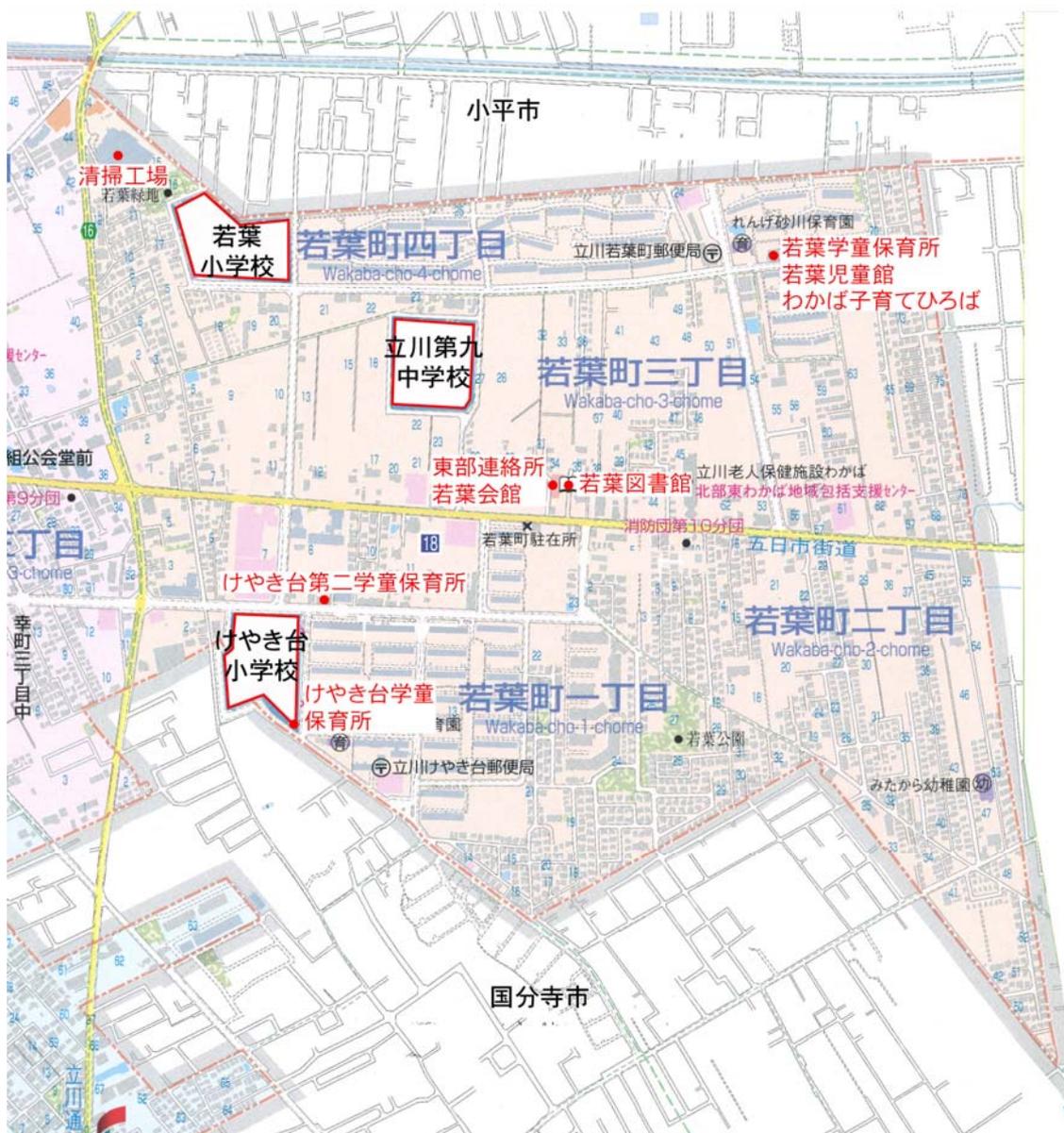
廊下



流し台(廊下)

### 2-3 周辺公共施設等

#### (1) 若葉町の公共施設等地図



## (2) 若葉町の学童保育所

### ① けやき台学童保育所

- ・ 定員：40名
- ・ 在籍児童数：48名
- ・ 建築年：昭和63年
- ・ 新校舎に複合化する



### ② けやき台第二学童保育所

- ・ 定員：20名
- ・ 在籍児童数：20名
- ・ 空き店舗活用



### ③ 若葉学童保育所

- ・ 定員：40名
- ・ 在籍児童数：46名
- ・ 建築年：昭和53年
- ・ 若葉児童館2階



(3) 立川市立立川第九中学校

- ・生徒数（平成28年5月1日現在）
  - 1年：115名
  - 2年：97名
  - 3年：100名
- ・クラス数（平成28年5月1日現在）
  - 1年：4クラス
  - 2年：3クラス
  - 3年：3クラス



(4) その他 公共施設



清掃工場



若葉図書館  
東部連絡所  
若葉会館

### 第3章 計画条件

#### 3-1 計画敷地の条件整理

##### (1) 敷地の位置・面積

土地の表示：立川市若葉町1丁目13番地1号

国分寺市西町5丁目9番地1号

地名地番：立川市若葉町1-13-1

敷地面積：15,978.62 m<sup>2</sup>

校庭面積約：5,800 m<sup>2</sup>

用途地域：(北側) 第一種住居地域

(西側) 第一種低層住居専用地域

(東側) 第一種中高層住居専用地域

建ぺい率等：(北/東側) 建ぺい率60% 容積率200%

(西側) 建ぺい率40% 容積率 80%

高度地区：(北/東側) 第二種高度地区

(西側) 第一種高度地区

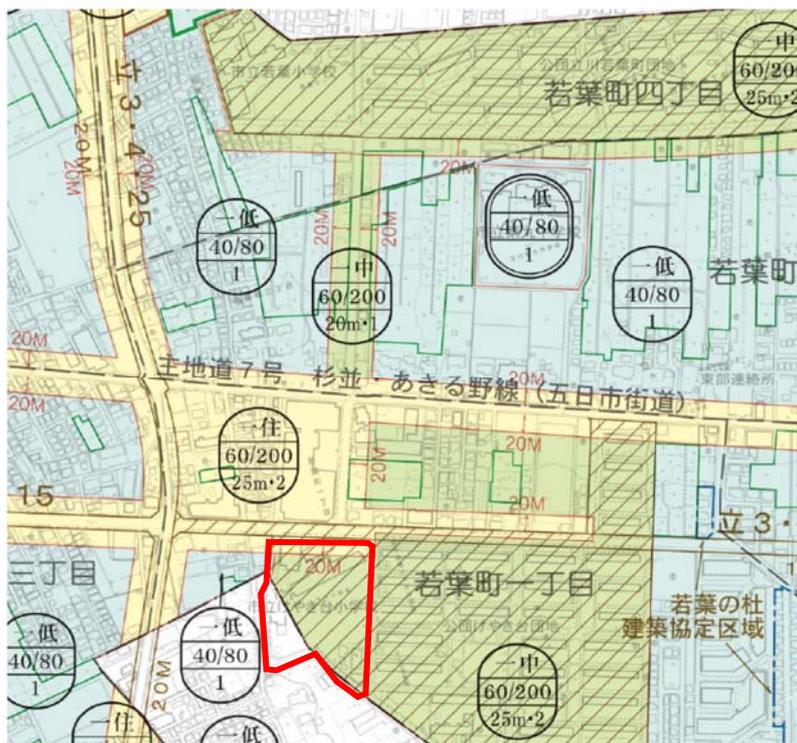
防火地域：(北/東側) 準防火地域

(西側) 指定なし 法22条指定区域

日影規制：(北側) 測定面4.0m 5mライン/4時間 10mライン/2.5時間

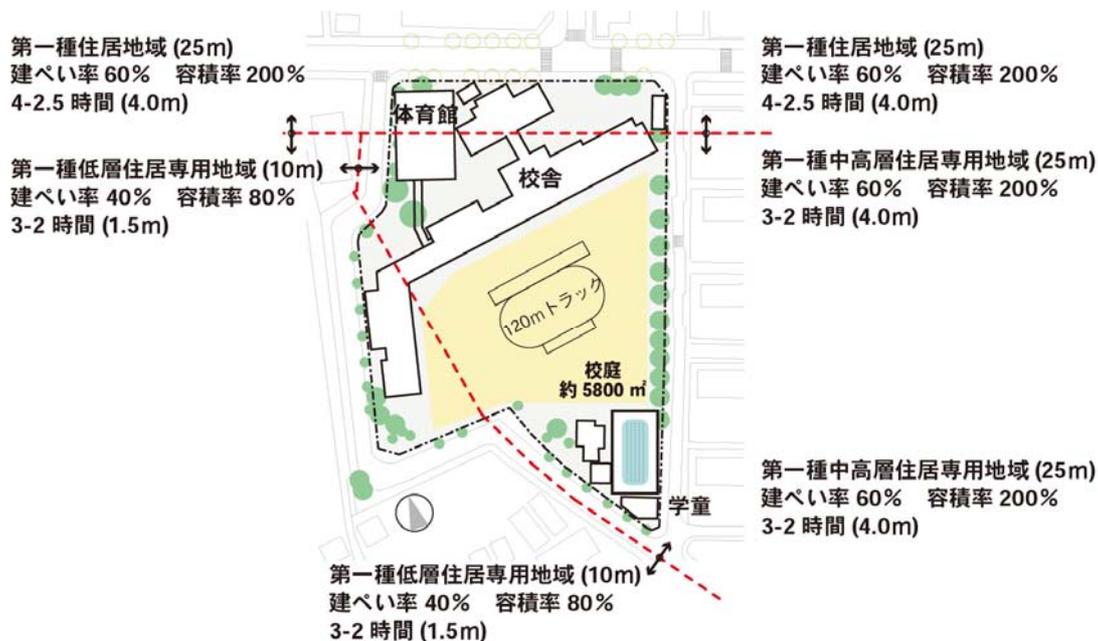
(西側) 測定面1.5m 5mライン/3時間 10mライン/2時間

(東側) 測定面4.0m 5mライン/3時間 10mライン/2時間



## (2) 前面道路

- ・北側道路：市道Ⅰ級10号線 幅員16.0m
- ・西側道路：市道東123号線 幅員10.5m
- ・東側道路：団地内通路
- ・南側道路：市道東123号線 幅員10.5m



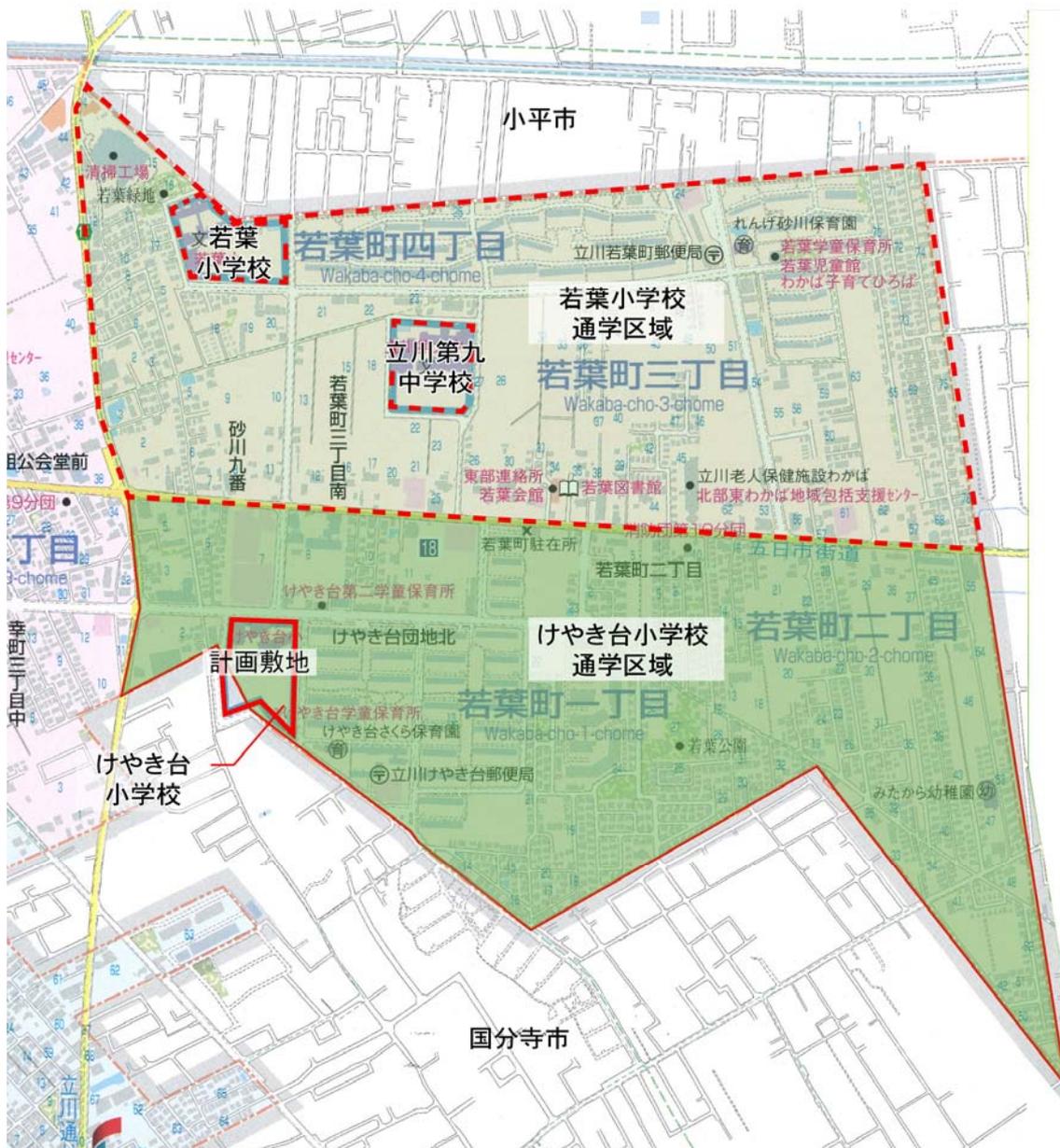
## (3) 関係法令

- ・都市計画法
- ・建築基準法、建築基準法施行令、東京都安全条例
- ・立川市建築基準法施行細則
- ・消防法、火災予防条例
- ・バリアフリー新法、福祉のまちづくり条例
- ・エネルギーの使用の合理化等に関する法律
- ・建築物における衛生的環境の確保に関する法律（ビル衛生管理法）
- ・立川市建築計画に関する事前調整要綱
- ・立川市宅地開発等まちづくり指導要綱
- ・立川市緑化推進条例、同施行規則、立川市景観条例
- ・東京における自然の保護と回復に関する条例
- ・建築リサイクル法
- ・国分寺市町まちづくり条例
- ・国分寺市の緑の保護と推進に関する条例

### 3-2 通学区域

#### (1) 通学区域

- ・若葉町1丁目、若葉町2丁目（現：けやき台小学校）
- ・若葉町3丁目、若葉町4丁目（現：若葉小学校）
- ・計画敷地は、通学学区に対して、南西の方向に位置している。



### 3-3 計画敷地の周辺状況と樹木状況

#### (1) 計画敷地の周辺状況



①北門  
 ・交差点に面した門・歩行者と車両動線が交差している



②団地側：北側道路  
 ・一団地内の団地内通路、一方通行の道路と歩道がある



③北側道路

- ・歩道があるが幅が狭く、朝は特に歩行者と自転車の行き来が多い



④北側道路

- ・敷地がやや高いため、塀によって見通しがさえぎられている



⑤東門

- ・現在は東門から登下校している
- ・校庭へ直接アプローチできる

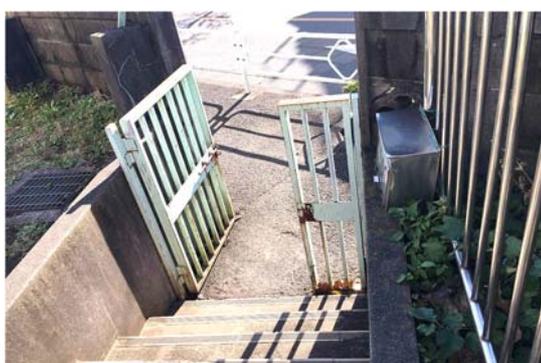


⑥団地側道路



⑦団地側：南側道路

- ・交差点の見通しが建物によってさえぎられている



⑧門（学童保育所）

- ・学童保育所へのアプローチ、高低差があり、バリアフリー対応となっていない



⑨南門



⑩南側道路



⑪西側道路



⑫西門

- ・通級指導学級の登下校の出入口となっている



⑬北側道路

- ・既存体育館により交差点の見通しが確保できていない



⑭北側横断歩道

## (2) 既存樹木の状況

計画敷地の中で、シンボリックな存在となっている樹木について調査した。





交差点に面して、3本のソメイヨシノがある



大きなケヤキが道路の並木と合わせて整備されている



西側道路沿いにも大きく育ったソメイヨシノがある



東側道路に沿ってソメイヨシノがある。一部枯れている樹木もあるため、調査を行い伐採、移植等を検討する。

### 3-4 児童・クラス数の推計と新校舎の計画学級数

#### (1) 児童・クラス数の推計

けやき台小学校と若葉小学校を統合し新学校を設立する平成30年度以降の児童数とクラス数の推計は下記の通り。平成30年度から32年度までは既存の若葉小学校と仮設校舎を暫定利用し、平成33年度以降は新校舎を利用する。

新校設立時（平成30年度）以降の児童数とクラス数の予測

	児童数	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計
新校設立	H30	97	96	123	125	120	116	677
	H31	75	97	96	123	125	120	636
	H32	83	75	97	96	123	125	599
新校舎完成	H33	78	83	75	97	96	123	552
	H34	62	78	83	75	97	96	491
	クラス数	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計
新校設立	H30	3	3	4	4	3	3	20
	H31	3	3	3	4	4	3	20
	H32	3	3	3	3	4	4	20
新校舎完成	H33	3	3	2	3	3	4	18
	H34	2	3	3	2	3	3	16

※1学年、2学年は35人学級。3学年以上は40人学級。

※たんぼぼ学級 児童数10名 クラス数2（平成28年5月1日現在）

#### (2) 新校舎の計画学級数

新校舎の計画学級数は、新校舎に移転する平成33年度の18クラスを基準とする。また、たんぼぼ学級については3クラスを基準とする。

### 3-5 その他

- ・トイレは全て洋式とする。
- ・給食は共同調理場からの配食方式とする。
- ・バリアフリーな校舎としてエレベーター・多目的便所を設置する。

## 第4章 基本理念と計画の方針

### 4-1 新校舎に関する意見の整理

新校舎建設マスタープラン検討委員会、アンケート、学校ヒアリング、ワークショップ等で、保護者、子どもたち、地域の方々、教職員から出された主な意見は以下のとおりである（個々の意見等の詳細は、資料を参照）。

#### (1) 校舎の配置と屋外学習環境の充実

意見
広い校庭、水はけの良い校庭、遊具の充実、校舎に近い菜園や畑の設置、校庭の芝生化、プールの改築、動物とのふれあい、山やトンネル等遊具の充実、屋上を校庭として補助利用、校庭に出やすいつくり、紫外線防止の日よけ

#### (2) 学習環境の充実・子どもたちが集える場・発表できる場

意見
授業の際に集中できる学習環境（隣の教室の音が聞こえない）、図書室の充実、特別支援学級の充実、環境について考える事ができる学校、目の行き届くつくり、開放的な教室づくり

#### (3) 居心地のよい生活空間・安全安心な学校

意見
学校に行くことが楽しくなる様なデザイン、廊下幅の広い校舎、子どもたちの収納の充実、エアコンの設置、トイレ等の衛生設備の充実、明るい校舎、木質化でぬくもりのある校舎、体格差に応じた設備、バリアフリーな校舎、空が見える教室、広く感じられる工夫

#### (4) 学校を支える地域ボランティアの場・防災拠点の整備等

意見
同窓会室の設置、お年寄りの憩いの場、地域の方が使える部屋、地震や災害に強い学校、コミュニティの場所、地域利用について不特定多数の方が出入りすることに対する不安がある、朝の校門が開くまでの敷地内の待機スペース

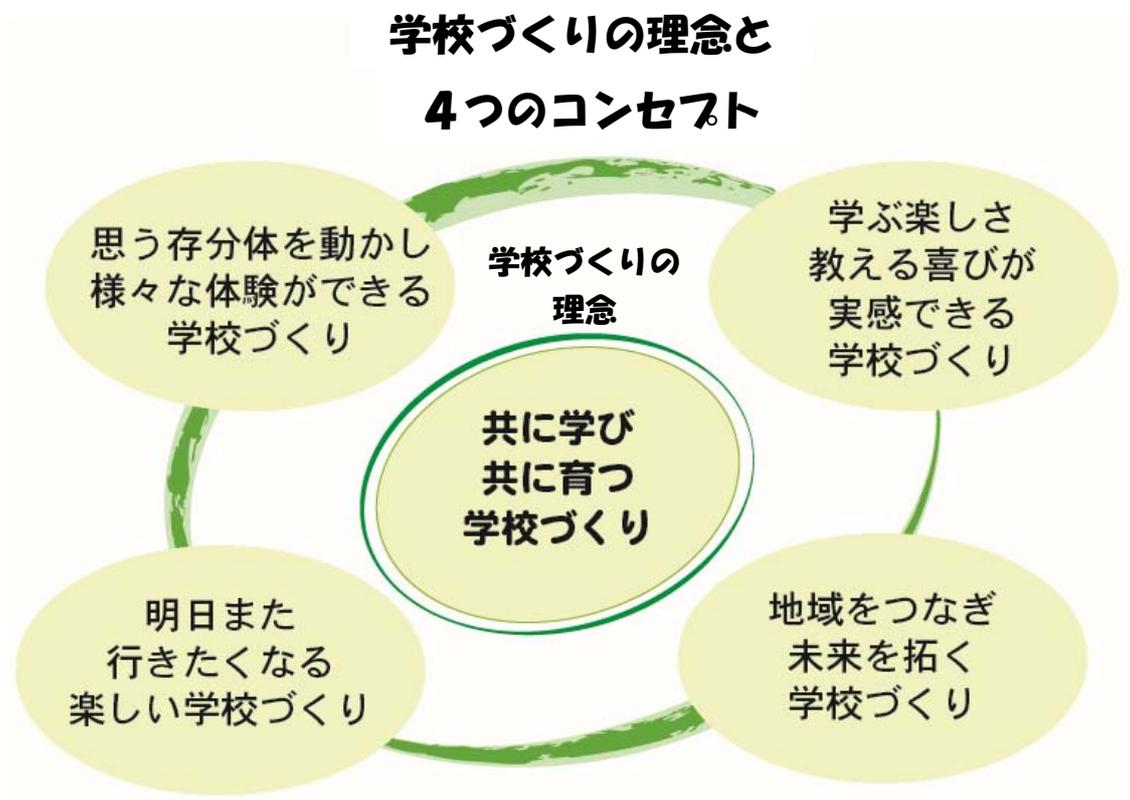
4章に使用している写真はイメージです

## 4-2 学校づくりの理念と4つのコンセプト

前頁の意見を踏まえ学校づくりの理念と4つのコンセプトを決定した。

新校舎の学校づくりの理念は、けやき台小学校と若葉小学校の2校が統合し、共生社会に向けたインクルーシブ教育の推進を目指し、「共に学び 共に育つ学校づくり」とした。

学校づくりの理念を実現するためのコンセプトは、「思う存分体を動かし、様々な体験ができる学校づくり」「学ぶ楽しさ、教える喜びが実感できる学校づくり」「明日また行きたくなる楽しい学校づくり」「地域をつなぎ、未来を拓く学校づくり」の4つとした。



### 4-3 計画の方針

前項の4つのコンセプトに対応するように本計画の方針を整理する。今後、下記の方針に基づき設計を進めていく。

#### (1) 思う存分体を動かし、様々な体験ができる学校づくり（屋外学習環境）

##### ① 運動施設

- ・校庭は、現在の若葉小学校（150mトラック）、けやき台小学校（120mトラック）より広い面積を確保し、150mトラック、80m直走路、砂場を設ける。広い校庭を実現するため、校舎は4階建、プールは校舎屋上に計画する。
- ・地域の利用も踏まえ、野球、サッカーができる寸法とする。（野球コート、サッカーコート）
- ・子どもたちが安心して遊べるプレイコートには、遊具（鉄棒、登り棒等）を設ける。
- ・校庭に面する位置に、体育倉庫、屋外便所、用務倉庫、用務員作業室等を設ける。

##### ② 様々な体験ができる屋外学習空間

- ・生き物と触れることのできる「みんなの森」「ビオトープ」を設ける。
- ・花を植えることや農作業ができる、花壇や学級菜園を設ける。



プレイコート



ビオトープ

(2) 学ぶ楽しさ、教える喜びが実感できる学校づくり（学習環境について）

①主体的な学習のできる環境

- ・子どもが主体的に学習できる環境を目指す。
- ・学習サイクルである「学ぶ」「調べる」「発表する」「展示・掲示」を踏まえて、校舎全体が学習空間となる環境を目指す。



学習サイクル

②普通教室の環境

- ・南向きの部屋とし、自然採光、自然通風に配慮する。
- ・児童が授業に集中できる環境とするため、黒板面をシンプルな壁で設える。
- ・教室やオープンスペースからの音の回り込みを抑える工夫を行う。
- ・普通教室まわりに収納スペース・展示掲示スペースを充実させる。
- ・黒板は体格差に配慮し、上下に動かせる設えとする。
- ・将来の ICT 化に対応可能な設えを検討する。

③普通教室内に設ける小空間

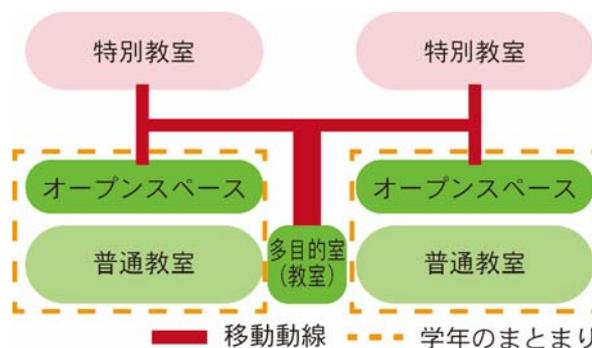
- ・普通教室内に、1クラスの児童が集まれる小空間を設置する。
- ・座学ができる床仕上げとすることで、子どもたちが落ち着ける空間となり、読み聞かせの場として活用できる。
- ・1段高い床は身近なステージとなり発表の場として活用できる。



普通教室内に設けた小空間

④学年のまとめり

- ・各学年を、普通教室3教室とオープンスペースで構成する。
- ・他の学年のオープンスペースを通過せずに、特別教室等へ移動できるルートを確認し、学年のまとめりをつくる。
- ・多目的室(教室)は、2つの学年の間に配置し、児童数増により普通教室が不足した場合、普通教室に転用できる設えとする。
- ・体育の授業の際に着替える更衣スペースに配慮する。



ゾーニングイメージ

### ⑤オープンスペース

- ・ オープンスペースは、学年集会スペースや少人数学習の場、発表空間等、多様な活動が可能な空間とする。(水場・観察台等)
- ・ 普通教室とオープンスペースの間には、大きく開放できる扉を設置し、普通教室の独立した環境を確保する。
- ・ 多様な活動を支える家具、掲示面を整備する。



発表空間としての活用



少人数学習スペースとして活用



普通教室の扉を開放した状態



普通教室の扉を閉めた状態

## ⑥図書室

- ・ 図書室は校舎の中心付近に配置し、図書等のメディアを身近に感じられる環境を目指す。
- ・ 気軽に入りやすい雰囲気づくりとして、新刊図書の展示の充実や中の見える図書室とする。
- ・ 床座コーナー等を設け絵本等に親しめる居心地の良い読書空間をつくる。
- ・ 読書としての機能を考慮した照明計画とする。
- ・ 貸出カウンターは全体が見渡せる位置に設ける。
- ・ 蔵書数（約 11,000 冊）の図書を収納できる書架を設ける。
- ・ 学年を超えた異学年交流空間として配慮する。



図書室の入り口に新刊図書



本が読みたくなる床座コーナー



畳の空間



本に囲まれた空間

## ⑦特別教室の設え

### ○理科室

- ・理科室と連続した屋外の観察空間や実験できるテラスを設ける。小さなビオトープや屋上緑化等を設け観察等の教材となるよう配慮する。
- ・教科の特徴や雰囲気伝える、収納展示コーナー、掲示コーナーを廊下に面して設ける。



理科室前の展示掲示空間

### ○音楽室

- ・音楽室は2室設け、1室は多目的室（ホール）を声楽用として活用する。
- ・合唱、器楽等の活動に配慮した、吸音性能を有する空間とする。
- ・音が他の教室に響かない配慮を行う。
- ・楽器庫を確保し、体育館や屋外への楽器の移動経路を考慮する。
- ・鏡を設け声楽等の授業に対応した設えとする。

### ○家庭科室

- ・調理、被服の授業を行える設えとする。
- ・ランチルームと連携したゾーニングとする。
- ・電子レンジやミシン等が使えるように、適切に電源設備を設ける。
- ・適切な換気量を確保する。
- ・食器等の収納物が用途に合わせた収納ができるとともに、教科の雰囲気を伝える収納展示コーナーを設ける。
- ・災害時の炊き出しが行える等、避難所施設としての機能を検討する。

### ○外国語活動室

- ・歌やゲーム等を取り入れた英語教育に対応した設えとする。
- ・普通教室等の設えと雰囲気を変えた空間づくりを行う。



富山市立中央小学校

雰囲気を変えた外国語活動室

### ○和室

- ・日本文化を学べる空間とする。
- ・少人数学習にも活用できる設えとする。

### ○図工室

- ・創作活動の魅力が伝わり、魅力が広がる環境づくりを行う。
- ・製作途中の子ども達の作品を保管するスペースや完成作品の展示スペースを設置する。
- ・糸鋸スペース等の工作作業スペースを設ける。
- ・水廻りの充実を図る。

### ○生活科室

- ・低学年のエリアに配置する。
- ・水の利用や作業、観察が可能な設えとする。

### ○多目的室（ランチルーム）

- ・衛生面に配慮し、ランチルームとして楽しく食事できる空間を整備する。
- ・掲示スペースを設け、食について学べる環境とする。
- ・少人数学習で活用できるようにするため、簡易な間仕切建具を設ける。
- ・家庭科室との連携を考慮する。
- ・異学年交流の場として整備する。



異学年交流（ランチ）の場

### ○多目的室（ホール）

- ・視聴覚室や第二音楽室としての機能を備えた空間とする。
- ・可動椅子を設け、発表空間として機能する設えとする。
- ・異学年交流拠点とする。
- ・地域開放可能なゾーニングとする。



可動椅子のあるホール

### ⑧特別支援学級

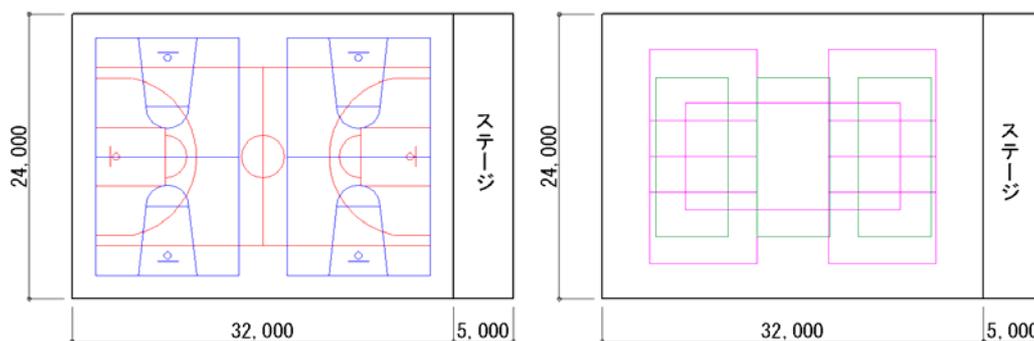
- ・知的障害のある児童を対象とし、通学区域の現状を踏まえた計画とする。
- ・南向きの環境（採光、通風、吸音、遮音）、校庭（学級菜園等）へのアクセスや避難等を考慮し1階に配置する。
- ・教室は、様々な学習形態を考慮し小教室や大教室を設け、収納スペース、目隠しカーテン等を設ける。
- ・保健室、職員室と連携が取りやすい配置とする。
- ・通常の学級の児童との交流が生まれる環境とする。

## ⑨運動施設

### ○アリーナ・ステージ

- ・二校が統合され、児童数が増えることに配慮し、市内の他の小学校と比べて広い空間を確保する。
- ・式典時に全児童が着席でき、保護者等の席もある程度確保できる広さとする。
- ・コートはバスケットボールコート（28m×15m）1面、バレーボールコート（18m×9m）2面、バドミントンコート（13.4m×6.1m）が確保できる広さとする。
- ・照明や音響等の舞台設備を設け音楽会、学芸会等に対応できる設えとする。
- ・地域開放が行いやすいゾーニングとするとともに、開放時の更衣スペースを確保する。

### □参考コート配置



・バスケットボールコート

・バレーボールコート

### ○プール

- ・新校舎の屋上に設置し、外部からの視線に配慮した計画とする。
- ・6コース、25mプールとする。
- ・日よけや風よけを設ける。
- ・災害時の雑用水として活用できるバルブを設ける。

### ○アプローチ・昇降口空間

- ・子どもを迎え入れる場所として相応しい空間づくりを行う。
- ・昇降口から校庭へ、スムーズな移動がしやすいづくりとする。
- ・昇降口は、学年の体格差にあった下足入れ等を設ける。

## ⑩管理諸室

### ○職員室・給湯ラウンジ・印刷室

- ・校庭や昇降口を見渡せる位置に配置し、児童を見守れる環境とする。
- ・個人情報の保護等の資料保管の観点から収納を充実させる。
- ・印刷コーナーをつくり授業の準備や資料作成が行いやすい環境とする。
- ・給湯機能と打合せ機能を合わせた給湯コーナー（教師ラウンジ）を設け、リラックスして教師間のコミュニケーションが図れる空間とする。



印刷コーナー



給湯コーナー（教師ラウンジ）

### ○校長室・応接室

- ・校庭を見渡せる配置とし、職員室と連携が図りやすい位置とする。

### ○保健室

- ・校庭に面した位置に配置し、緊急車両の寄り付きにも配慮する。
- ・教育相談室と連携できる配置とする。
- ・健康に関する情報発信センターとなるよう、展示・掲示面の充実を図る。
- ・子どもたちがほっとできる空間として、温かみのある設えとする。

### ○事務室

- ・正門と来客用入口に面して配置し、受付業務が可能な配置とする。
- ・職員室、校長室との連携を考慮する。

### ○学校ボランティア支援室

- ・学校を支援しているボランティアの拠点を管理ゾーンに設ける。

### ○会議室

- ・職員会議のスペースを管理諸室内で玄関に近接した位置に設ける。来校者の接客対応スペースやPTA等の会議にも活用できるつくりとする。

### ○PTA室

- ・教職員との連携を踏まえた配置とする。

### (3) 明日また行きたくなる楽しい学校づくり（生活空間・安全安心について）

#### ①生活空間について

- ・居心地の良い生活空間を整備する。
- ・子どもたちの荷物を適切に収納できるスペースを確保する。
- ・普通教室、特別教室、管理諸室等には空調機を設置する。
- ・トイレは、明るく快適な空間とし、全て洋式とする。
- ・内装木質化を図り温かみのある空間づくりを行う。
- ・伐採する既存樹木を利用し、サイン等に活用する。



居心地の良いベンチ空間



収納スペースの充実



明るく快適なトイレ



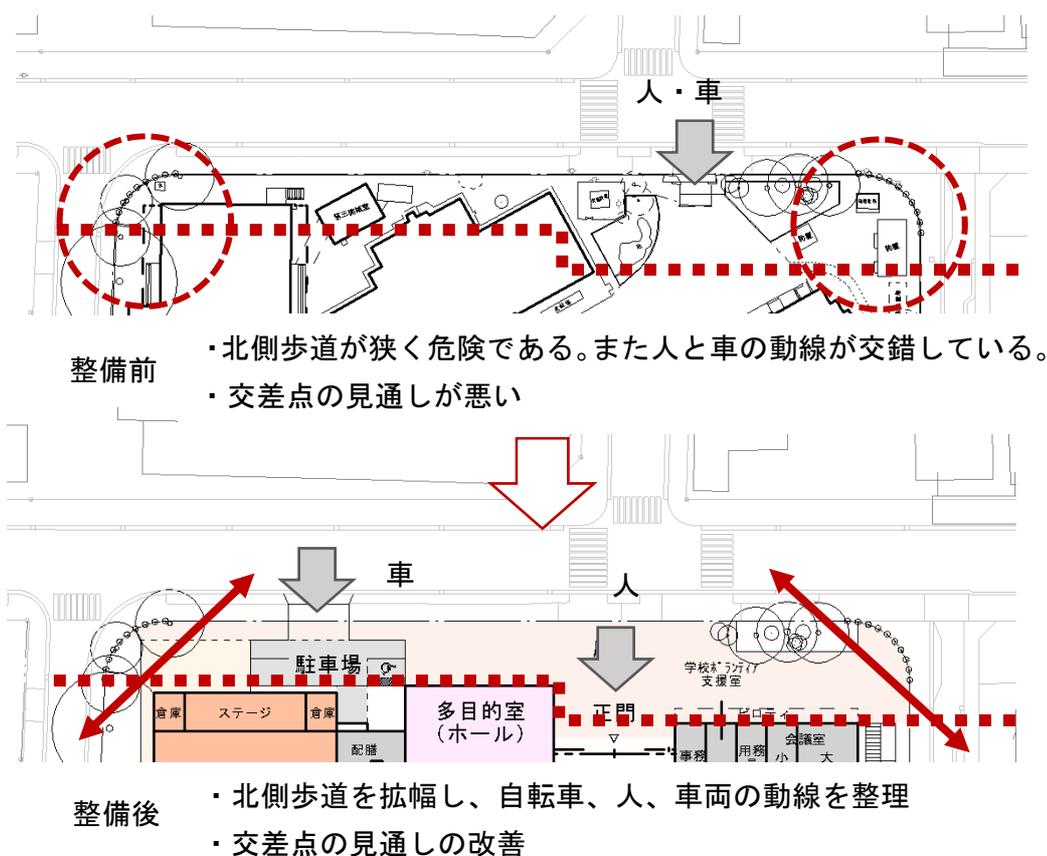
木質化した空間



既存樹木を利用したサイン

## ②安全安心な学校

- ・校舎全体が明るく、教職員の目の行き届く計画とする。
- ・バリアフリーな校舎として、エレベーター・多目的便所を設置する。
- ・駐車場の出入口は、児童の出入口と離して設ける。
- ・北側道路の狭隘な歩道空間を解消するために、歩車分離や校舎を後退させ、安全安心な登下校の空間を整備する。
- ・シックハウス対策を行う。
- ・給食の配膳は、衛生面に十分配慮した計画とする。



北側門まわり整備イメージ図



歩道拡幅空間にベンチを設けた事例



緑地による動線分離の事例

#### (4) 地域をつなぎ、未来を拓く学校づくり（複合施設・防災拠点について）

##### ①複合施設（学童保育所）として

- ・学童保育所を複合化する。
- ・学童保育所の定員は90名とする。
- ・保育室は南向きとし、自然採光、自然通風、吸音、遮音に配慮した計画とする。校庭へアクセスしやすい位置とする。
- ・独立した運営が可能となるよう、トイレ、多機能便所を配置する。

##### ②防災拠点として

###### ○現状把握

- ・現在のけやき台小学校は、一次避難所に指定されており、同一敷地内にある、学童保育所は二次避難所に指定されている。
- ・敷地には防災備蓄倉庫と、防災無線が整備されている。
- ・被災地域からの避難者の想定人口は1090人である。
- ・立川市洪水ハザードマップによると若葉町全域では、多摩川、残堀川による浸水は想定されていない。

###### ○防災拠点としての施設づくり

- ・立川市地域防災計画にそって、学校の防災機能を充実させる。
- ・校舎の耐震性は、震度6強～7程度の大地震後に構造体の大きな補修をすることなく、建物が使用できる程度とする。
- ・乾式壁、天井等の非構造部材については、大地震後に災害活動等を円滑に行え、施設管理のうえで支障となるような損傷、移動等が発生しないことを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られるものとする。
- ・照明、空調機等の設備機器は、大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られていることを目標とする。（校舎の耐震安全性はⅡ類、A類、乙類とする。）
- ・一次避難所のエリア内に、トイレを設ける。

### ③地域と共に子どもが参加できる「学校づくり」

#### ○みんなの森をつくる（案）

- ・ どんぐり等の苗木を育てて、学校の森を作る
- ・ 予定 : 平成 29 年秋 (どんぐり拾い)  
: 平成 30 年 1 月 (ポットに植える)  
: 平成 31 年 1 月 (植樹)



ポットにどんぐりを植える



順調にいくと 7 月には芽が成長

#### ○みんなの壁をつくる（案）

- ・ 記念タイルを制作し、トイレやオープンスペースの壁に貼り付ける
- ・ 予定 : 平成 30 年度 (記念タイルを制作)  
: 平成 31 年度 (記念タイルを制作)  
: 平成 32 年 10 月頃 (新校舎建設時に貼る)

#### ○学びの空間をつくる（案）

- ・ 木材を着色し、図工室の壁等に貼る
- ・ 予定 : 平成 32 年度 (着色)  
: 平成 32 年 10 月頃  
(新校舎建設時に貼る)



(着色した合板を貼ったイメージ)

### ④みんなに親しまれる学校を目指す

- ・ 若葉町の新たなシンボルとなる学校としてつくる。
- ・ 記念樹を大切にしたい計画とする。
- ・ 2 校の歴史等を見られる展示空間を設ける。
- ・ 学校の顔にあたるアプローチ空間を魅力的につくる。
- ・ 安全性を踏まえた上で、地域の方々に、学校の雰囲気（子どもの様子）が伝わる校舎を目指す。

## 第5章 計画建物の概要

### 5-1 諸室一覧表

- ・今回計画の室数、面積については、現時点でのものであり、今後、設計段階において、変更する可能性がある。

	学校名	今回計画			けやき台小学校			若葉小学校			備考
		18 クラス			17 クラス			9 クラス			
	クラス数	室数	面積/室 (㎡)	計面積 (㎡)	室数	面積/室 (㎡)	計面積 (㎡)	室数	面積/室 (㎡)	計面積 (㎡)	
普通教室	低学年普通教室	6	80	480			0			0	小空間含む
	普通教室	12	70	840	22	67.5	1485	14	63.8	893	8m*8m+教師コーナー
	多目的室(教室)	2	96	192							普通教室と同じ仕様。 1フロアに1学級ずつ。
	オープンスペース(OS)	2	96	192							低学年 24m*4m
	オープンスペース(OS)	4	144	576							中高学年 24m*6m
	小計				3276			1485			893
特別支援	特別支援学級	1	64	64	2	67.5	135	2	63.8	128	
		2	32	64	4	67.5	270	2	35.6	71	
					3	33.8	101				
	ブレイルーム	1	64	64	1	67.5	68	1	63.8	64	
	特別支援職員室	1	32	32	1	67.5	68	1	63.8	64	
	教材庫	1	32	32				1	24.25	24	
	多機能便所	1	5	5				1	24.25	24	
	特別支援教室(キラリ)	1	64	64				1	64.3	64	
小計			325			641			439		
特別教室	図書室	1	175	175	1	171.5	172	1	209.2	209	
	和室	1	64	64							
	コンピュータ室				1	86.3	86	1	123.5	124	
	外国語活動室	1	64	64							
	図工室	1	96	96	1	126.5	127	1	110.1	110	
	図工準備室	1	32	32	1	45.0	45	1	34.5	35	
	理科室	2	96	192	1	126.5	127	1	112.7	113	
	理科準備室	1	32	32	1	45.0	45	1	31.9	32	
	生活科	1	96	96				1	63.8	64	
	第一音楽室	1	128	128	1	158.0	158	1	112.7	113	
	第二音楽室							1	63.7	64	多目的室(ホール)を兼用
	音楽準備室・楽器庫	1	32	32	1	36.0	36	1	31.9	32	
	家庭科室	1	96	96	1	126.5	127	1	112.7	113	被服室、調理室と兼用。
	家庭科準備室	1	32	32	1	45.0	45	1	31.9	32	
	作品置き場							2		128	適宜
	視聴覚室				1	126.5	127				多目的室(ホール)を兼用
	視聴覚準備室				1	45.0	45				
	多目的室(ホール)	1	198	198	1	86.3	86				1学年収容を想定
	教材庫	4	20	80	6	32.6	196	3	24.25	73	
	小計			1317			1420			1239	
ラン(給食)ルーム	多目的室(ランチルーム)	1	175	175				1	63.8	64	多目的室として利用可能な設え
	1階配膳室	1	50	50							
	各階配膳室	3	32	96	3	36.0	108	4		115	
	小計			321			108			179	

第5章 計画建物の概要

	室名	今回計画			けやき台小学校			若葉小学校			備考
		室数	面積/室 (㎡)	計面積 (㎡)	室数	面積/室 (㎡)	計面積 (㎡)	室数	面積/室 (㎡)	計面積 (㎡)	
管理諸室	校長・応接室	1	32	32	1	33.8	34	1	63.8	64	
	職員室	1	192	192	1	135.0	135	1	127.5	128	
	印刷室	1	32	32	1	20.6	21				
	事務室	1	32	32	1	33.8	34	1	31.9	32	
	会議室	1	96	96	1	67.5	68	2	63.8	128	
	用務室	1	32	32	1	30.7	31	1	28.5	28	
	職員更衣・休憩室	2	32	64	1	67.5	68	1	58.2	58	男女別
	給湯・ラウンジ	1	32	32							
	職員・来客便所	2	32	64	1	31.2	31	1	31.2	31	男女別 多機能便所含む
	保健室	1	96	96	1	67.5	68	1	67.5	68	
	教育相談室	1	32	32	1	33.8	34	1	39.2	39	
	放送室	1	20	20	1	21.8	22	1	33.8	34	
	倉庫	2	32	64			92	1	63.8	64	
	小計			788			635			673	
運動施設	体育館・ステージ	1	824	824	1	465.0	465	1	476.3	476	24m*32m
	器具庫	2	32	64			145	1	84.0	84	
	放送							1	21.8	22	ステージに含む
	更衣室	2	16	32	2	12.0	24	1	43.3	43	
	管理室				2	13.3	27	1	12.2	12	
	WC	1	64	64	1	19.3	19	1	29.3	29	
	玄関・廊下						33	1	69.9	70	
	小計			984			713			737	
プール	プール		25m*10m/----		25m*10m/6m*4		25m*10m/10m*4.5m			大プール/小プール	
	器具庫	1	32	32	1	7.3	7				
	更衣室・WC	2	32	64	2	14.6	29	2	21.1	42	
	機械室	1	32	32	1	20.9	21	1	14.3	14	
	小計			128			57			56	
保護者・地域活動施設	PTA室	1	32	32	1	67.5	68	1	67.5	68	
	備蓄倉庫	1	32	32	1	69.2	69	1	63.8	64	
	校歴展示	1	16	16							
	倉庫										適宜
	学校ボランティア支援室	1	32	32	1	33.8	34				
	小計			112			170			131	
共用部	便所	7	64	448	9	31.2	281	10	51.0	510	男女別 多機能便所含む
	機械室			0	1	77.7	78				
	廊下			1,289			1,210			756	適宜
	階段	8		384	5		436	3		292	
	エレベーター	4	7.5	30							
	小計			2151			2004			1559	
合計				9,402			7,233			5,905	

第5章 計画建物の概要

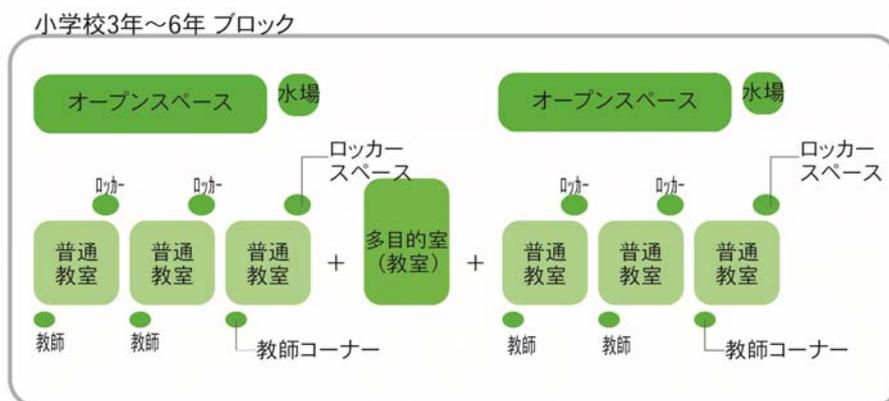
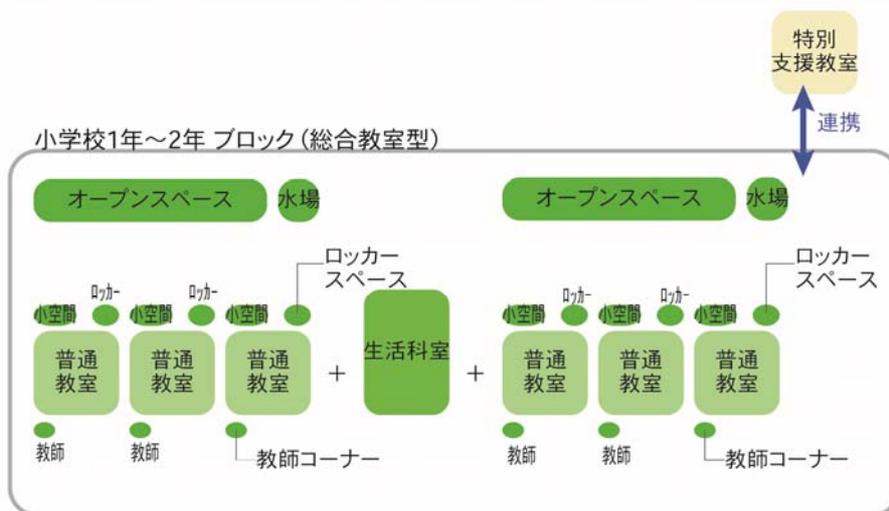
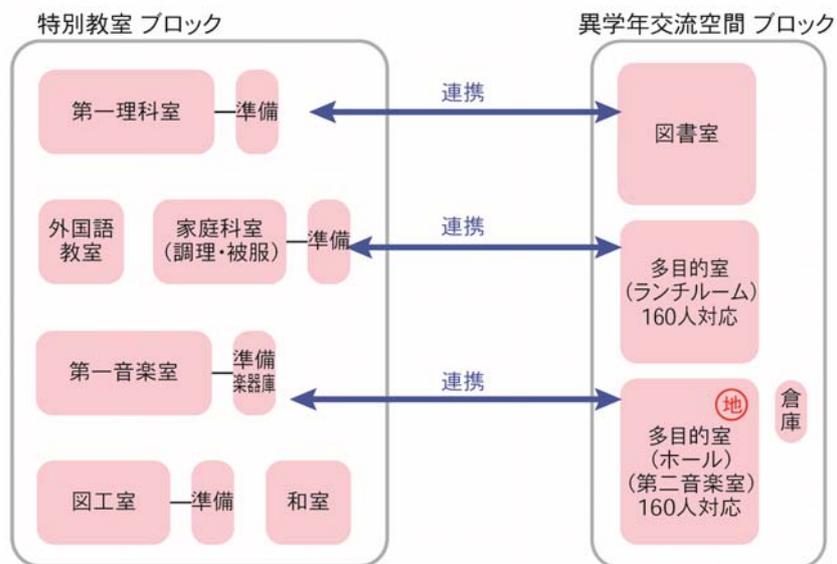
	室名	今回計画			けやき台小学校			若葉小学校			備考
		室数	面積/室 (㎡)	計面積 (㎡)	室数	面積/室 (㎡)	計面積 (㎡)	室数	面積/室 (㎡)	計面積 (㎡)	
学 童 保 育 所	学童保育室(大)	1	100	100							定員90名 一人当たり1.65㎡
	学童保育室(小)	1	50	50							
	職員室・給湯	1	32	32							
	WC・脱衣	1	32	32							
	倉庫	1	32	32							
	小計			246							

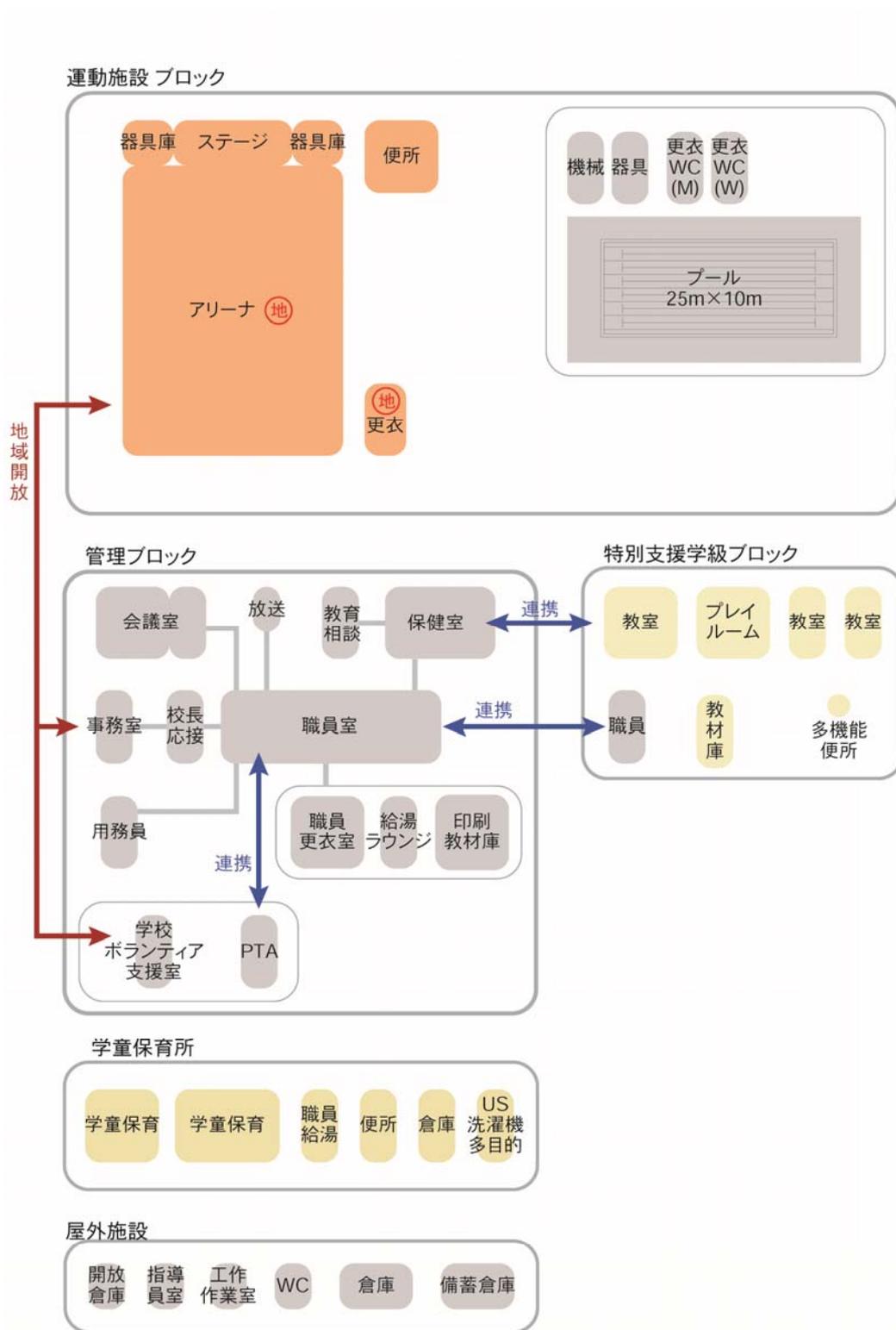
	室名	今回計画			けやき台小学校			若葉小学校			備考
		室数	面積/室 (㎡)	計面積 (㎡)	室数	面積/室 (㎡)	計面積 (㎡)	室数	面積/室 (㎡)	計面積 (㎡)	
屋 外 倉 庫 棟	屋外倉庫	1	20	20							
	指導員室	1	15	15							
	工具作業室	1	20	20	1	48.2	48	1	13.2	13	
	開放用倉庫	1	40	40							
	WC	1	25	25							
	小計			120							

校庭面積	約 7,600 ㎡	約 5,800 ㎡	約 7,300 ㎡	
------	-----------	-----------	-----------	--

- けやき台小学校と若葉小学校のクラス数は平成28年5月1日現在のもの  
であり、新校舎は18クラスで計画する。
- 今回計画は、8m×8mを基本寸法として各室の面積を検討した。

5-2 室構成の考え方





※地域開放を想定される室 : (地)

## 第6章 配置計画・施設構成

### 6-1 配置計画

#### (1) 配置計画の基本的な考え方

##### ①アプローチ空間（正門まわり）

- ・通学学区のエリアを踏まえ、メインの登下校動線を北側道路からのアプローチとする。交差点に面する部分に広場を設け、登校してくる子どもたちを受け止める空間を整備する。
- ・北側道路の狭隘な歩道空間は、敷地側に拡幅し、通学路の安全性を高める計画とする。また、拡幅した部分を歩行者専用の空間とする。
- ・児童の登下校動線と駐車場への車の動線を分離した計画とする。
- ・広場には、子どもたちや地域の交流空間となるよう植栽やベンチなどを計画する。

##### ②敷地の特徴を活かした計画

- ・敷地の南側がウサギの耳の様な特徴的な形状となっており、プレイコート（遊具）や学校の森、農作業スペース、駐車場等で有効的活用する。
- ・既存樹木は、できるだけ残し緑地空間を確保する。

##### ③近隣に配慮した計画

- ・敷地東側の共同住宅に対して、教室を正対させない計画とする。また、学校から発生する音に配慮し、体育館やプールは敷地西側に配置する。
- ・校庭開放時を想定し、登録している団体等が校庭へ直接出入りできるルート（門扉等）を設ける。

##### ④駐車場の計画

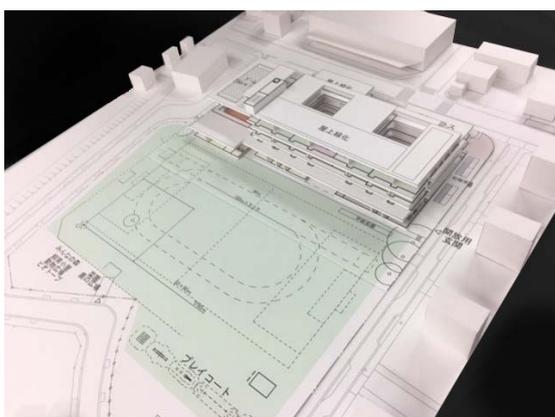
- ・校舎に近接した北側の駐車場は、車いす用、給食搬入用、備品搬入用、臨時用として確保する。車いす用は、雨天時に校舎まで濡れずにアクセスできるようにする。給食搬入用は、コンテナの搬出入が行いやすい形状とする。
- ・来校者用駐車場として敷地の南側に、10台程度設ける。
- ・教職員用駐輪場は30台程度設ける。臨時の駐輪場はスペースを想定して確保する。

6章に使用している写真はイメージです

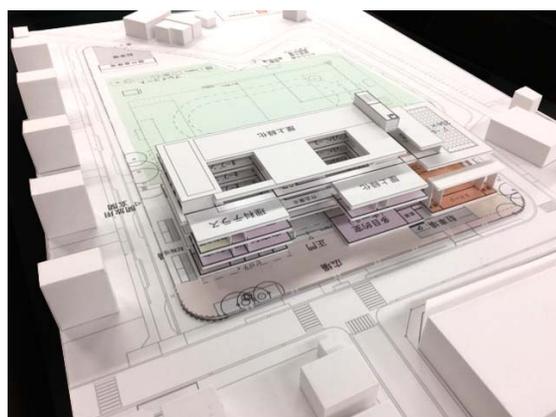
(2) 校舎配置の比較

- 校舎配置をA案～C案で比較検討を行った。校庭が広く確保でき、普通教室が南向きとなる等の観点から総合的に判断し、A案で計画する。

	A案	B案	C案
計画案			
教室の向き	全教室南向き ◎	南向きの教室と東向きの教室がある。 ○	全教室東向きの教室となる。 △
校庭の広さ	約7800㎡ ◎	約6500㎡ △	約6700㎡ △
校舎延べ面積	9,600㎡ ○	11,300㎡ △	9,300㎡ ◎
建物高さ	地上4階建て ○	地上4階建て ○	地上4階建て △
体育館天井高さ	7m～8m ○	7m～8m ○	7m～8m ○
評価	○	△	△



A案 配置イメージ模型①



A案 配置イメージ模型②

(3) 配置イメージ図



## 6-2 平面計画

### (1) 平面計画の基本的な考え方

#### ① 全体構成について

- ・ 5-2「室構成の考え方」を基本とした平面構成とする。
- ・ 4-3「計画の方針」に基づき、各諸室をレイアウトする。
- ・ 学年のまとまりを配慮し、6つの学年ゾーンを構成する。
- ・ 全校児童の集まりやすい校舎中央には、多目的室、図書室等の異学年交流のスペースを配置する。

#### ② 児童の出入口について

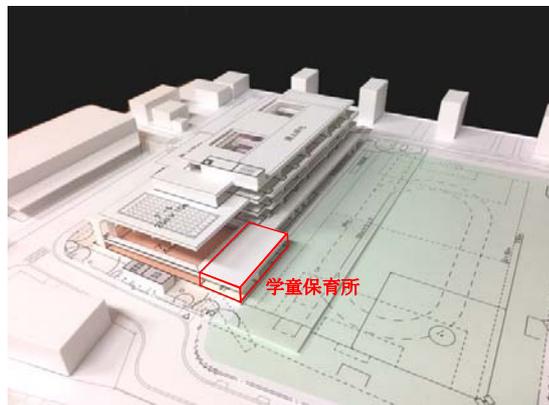
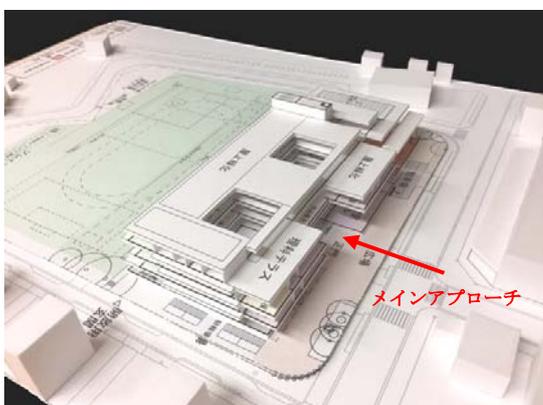
- ・ 児童用昇降口は、メインアプローチに面して設ける。校庭への出入口は、間口を広く確保し、子どもたちの移動が集中する時間帯に混雑しないよう配慮する。
- ・ 出入口には、雨の日のたまりの空間として半屋外空間（ピロティや庇）を設ける。

#### ③ 学童保育所について

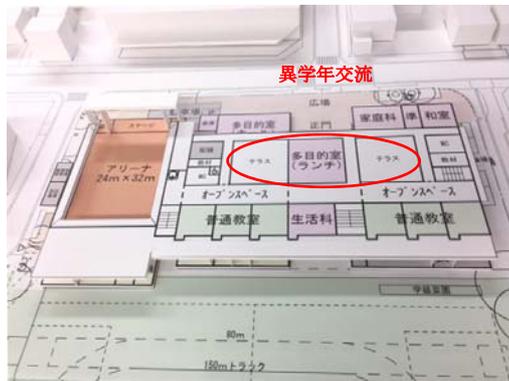
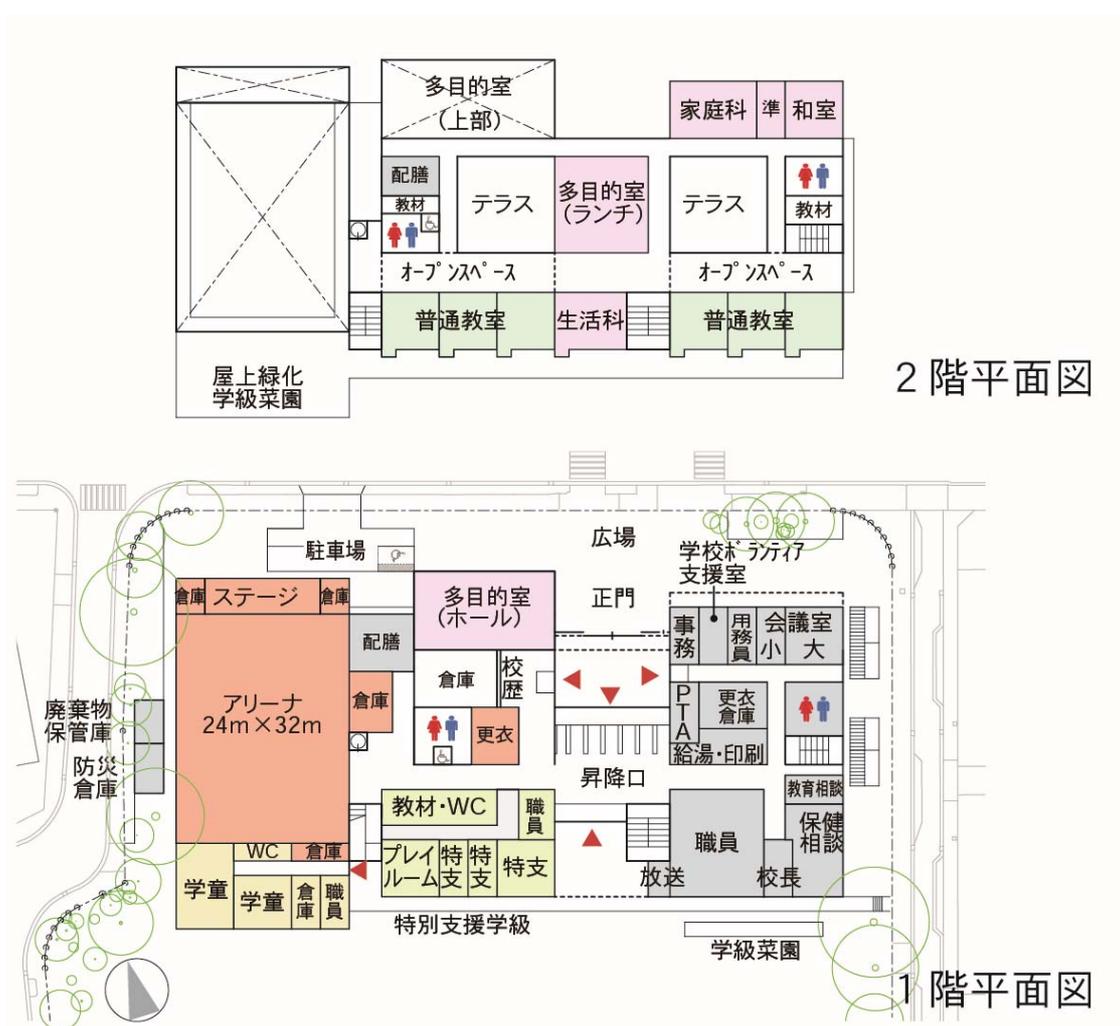
- ・ 4-3「計画の方針」に基づき、校庭に面した南向きに計画する。
- ・ 単独の玄関を設け、独立した運営が可能な形状とする。

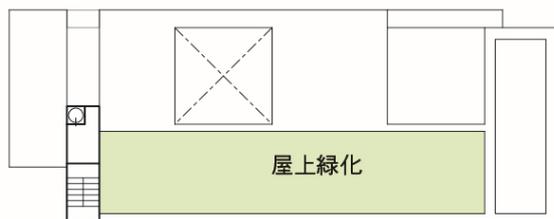
#### ④ 地域開放について

- ・ 地域開放を予定している体育館や多目的室（ホール）を同じゾーンに計画し、独立して開放できる構成とする。
- ・ 地域開放する際の専用玄関を設ける。

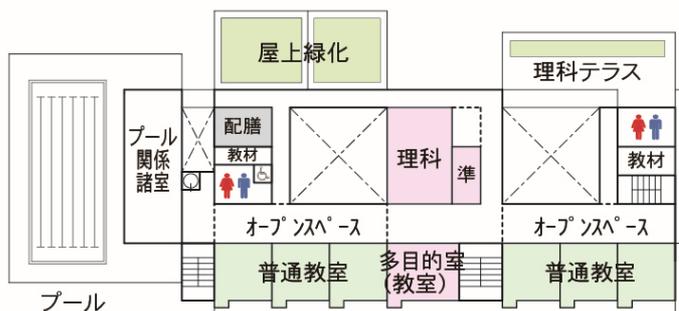


(2) 平面イメージ図

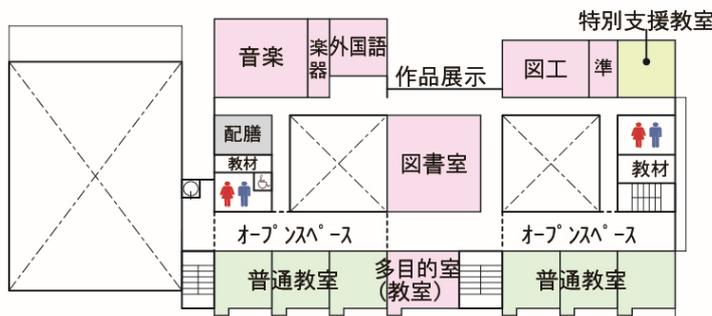




PH階平面図



4階平面図



3階平面図



## 6-3 防災拠点としての計画

### (1) 基本方針

- ・4-3「防災拠点として」に基づき、校舎を防災拠点として整備する。
- ・備蓄倉庫は、体育館と連携した位置に配置する。
- ・二次避難所となる学童保育所との連携が、スムーズに行える配置とする。
- ・発災から学校の早期再開までを、スムーズに行えるゾーニングとする。
- ・要配慮者等の避難に対応する部屋を想定し、被災者のプライバシーに配慮する。
- ・主要な階段は広い幅で整備し、円滑な避難や防災拠点として機能しやすい設えとする。

### (2) 各活動期における学校に必要な防災機能

#### ①即時対応期

- ・被災者がスムーズに避難できるバリアフリー動線を確保する。
- ・非常用照明や夜間でも避難できる誘導設備を設ける。
- ・情報通信設備と非常用の電源を設ける。

時系列に応じた各活動期

(立川市地域防災計画による)

- ①即時対応期・・・災害発生～24時間
- ②初動活動期・・・24時間～72時間
- ③応急活動期・・・72時間～1週間
- ④復旧活動期・・・1週間以降

#### ②初動活動期

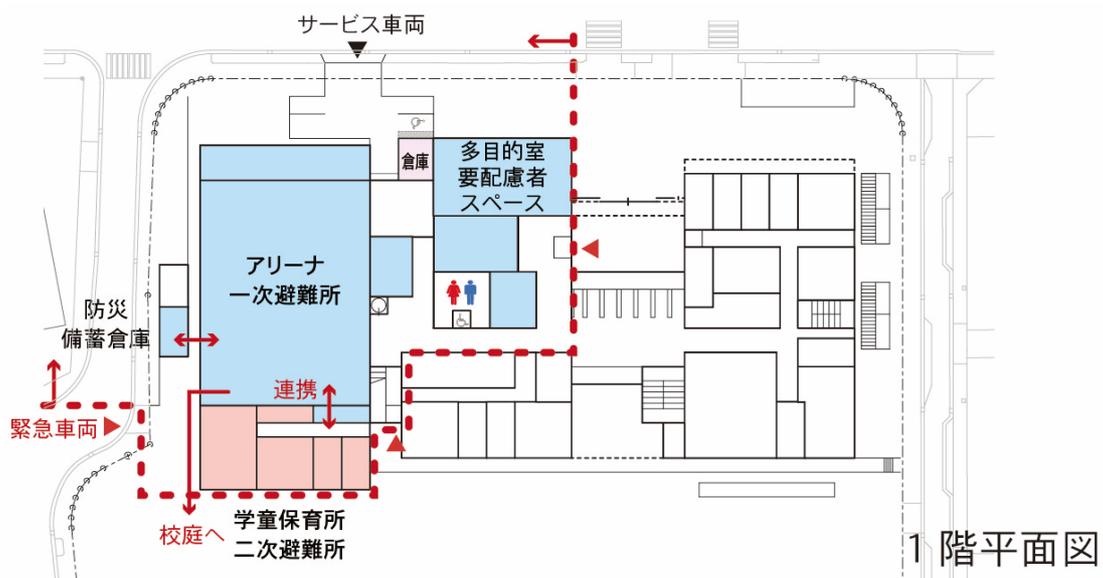
- ・備蓄倉庫から荷物を出し入れしやすく、連携が図れるゾーニングとする。
- ・マンホールトイレや仮設トイレのスペースを設ける。
- ・障害者、高齢者、乳幼児、妊婦等配慮の必要な方々に対応した、要配慮者専用スペースを設けることのできるゾーニングとする。
- ・屋上のプール水を利用できる採水口を設ける。
- ・飲料水や水源の確保の観点から受水槽を設置し、採水できるつくりとする。
- ・炊き出し等ができる半屋外空間を設ける。
- ・避難所へ車両が寄り付ける動線を確保するとともに、物資の搬入が容易な開口部を設ける。
- ・避難所職員の活動を支えるスペースを設ける。

③ 応急活動期

- ・ 学校再開に向けて、避難所エリアと学校エリアを明確に区画ができる校舎の構成とする。
- ・ アリーナと二次避難所が連携しやすい配置計画とする。

④ 復旧活動期

- ・ 学校を再開するエリアと避難のエリアを分けられるゾーニングを行う。



初動活動期～応急活動期：避難所イメージ図

## 6-4 防犯計画

### (1) 敷地外周部のセキュリティ

- ・校内への不審者の侵入を抑止できるよう、セキュリティエリアが明確に把握できる校舎とする。
- ・校内の管理諸室等を教職員の目で見守れるよう視認性を確保する。
- ・敷地の北側は校舎外壁で、校舎より南側の敷地境界は見通しの良いメッシュフェンスでセキュリティラインを構築する。
- ・敷地内の外灯設置や校舎の照明計画により、広場や拡張した歩道が明るくなるよう整備する。

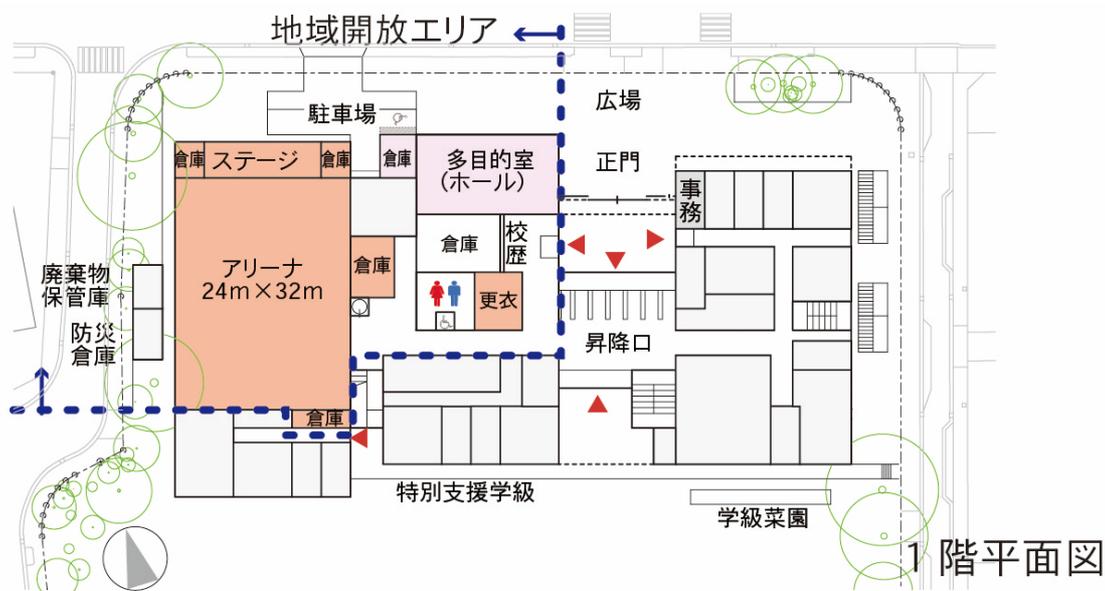
### (2) 受付機能

- ・アプローチ空間に面した分かり易い位置に、事務室の受付機能を計画する。
- ・来校者の受付確認は、事務室で対応し、セキュリティエリア内に導く計画とする。事務員が不在の際にはカメラ付きインターホンで対応できる設えとする。

### (3) 地域開放時のセキュリティ

- ・校内の地域開放エリアと非開放エリアの区画を明確に行い、開放施設利用者が、非開放エリアに入れない、または動線が交錯しない計画とする。

※開放エリア：アリーナ、多目的室（ホール）を想定している。



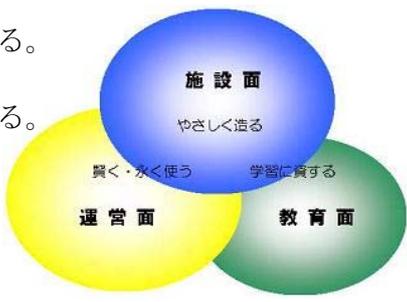
## 6-5 環境への配慮

### (1) 基本方針

エコスクールの3つの考え方に留意し、エコ活動の模範となり地球温暖化対策に貢献する学校施設を整備する。

**エコスクールの考え方**

- 1 施設面・・・やさしく造る
  - ・学習空間、生活空間として健康で快適である。
  - ・周辺環境と調和している。
  - ・環境への負荷を低減させる設計・建設とする。
- 2 運営面・・・賢く・永く使う
  - ・耐久性やフレキシビリティに配慮する。
  - ・自然エネルギーを有効活用する。
  - ・無駄なく、効率よく使う。
- 3 教育面・・・学習に資する
  - ・環境教育にも活用する。



※文部科学省HPより抜粋

#### □参考事例

- ・風の流れを生かす
- ・太陽の恵みを生かす(自然採光)
- ・水を循環させる(雨水利用)
- ・緑を活かす
- ・建物の高断熱化
- ・庇などによる日射制御



階段室を利用した自然通風



太陽光と風力を活用した外灯



屋上緑化による断熱性の向上

**(2) 校舎そのものが環境対策の生きた教材**

- ・環境に配慮した対策を「見える化」して整備する。
- ・環境学習の中で、エコの探検ができる仕掛け（見える化したエコ材料・エコサイン・エコパネル等）を設置する。
- ・日常生活におけるエネルギー消費の実態を知り、子どもたちの工夫・実践を通じて環境学習の意欲を高められる施設を目指す。



エコサイン（風の塔・屋上緑化）

**(3) 省エネ計画**

- ・再生可能エネルギーの利用を積極的に行う。

**(4) 緑化計画**

- ・「自然保護条例」に基づいて敷地内の緑化を確保し、周辺景観の向上や緑量確保に貢献する。
- ・既存樹木を活かした計画とする。



見える化による興味を喚起する

**6-6 ユニバーサルデザイン**

**(1) 基本方針**

- ・子どもたちや、地域の方、障害がある方、けがをしている方や子育てをしている方など、誰もが利用しやすい施設とする。
- ・「建築物バリアフリー条例」の順守に加え、各階には多機能便所を1か所設け、インクルーシブ教育を見据えた環境を整備する。
- ・誰もがわかりやすい施設として、案内表示、色彩計画等に配慮する。
- ・屋上に設置するプールからの搬送を踏まえ、エレベーターはストレッチャー対応とする。
- ・災害時の運営も踏まえた、施設のバリアフリー化を行う。

※インクルーシブ教育：障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み  
（文科省）

## あとかき

### 立川市の学校づくりと新校舎建設に向けて

新校舎建設マスタープラン検討委員会 委員長 長澤 悟

### 立川市の学校づくり

私は立川市の学校づくりに、南富士見小と多摩川小の統合による新生小学校と、移転する学習館と複合化する第一小学校の2校の計画に関わらせて頂きました。両校とも校長、PTA代表、町会の代表、子ども育成団体の方々が検討委員会に参加して思いを述べ、公募の委員は広く市民の観点からの意見を出され、そこに市の関係部課長が勢揃いして考えを説明するという自由闊達な会でした。

新生小学校の時は、毎回教育長も出席され、教育改革を成し遂げた先進校の校長を講師に招いて勉強会をするなど、これからの立川の教育の方向を定める機会として生かそうとする熱気を感じました。既存校舎の改修による計画でしたが、木材を活用し、教育面で新しい命を吹き込むという学校づくりでした。校名が新生小学校となったと聞いた時には、皆さん同じことを感じていたのだと嬉しい思いがしました。

一方、第一小学校は創立140年を越える学校で、その歴史を学校も地域も誇りにしている様子が伝わってきました。移転改築される学習館・図書館との複合計画でしたので、学校だけでなく地域の活動とそれを受け止める学校の役割について広く考える機会となりました。移転は、特に利用の中心になっていた人にはより影響が大きいことです。また現地建替えは教育環境を一時的に悪化させます（説明会ではうちの子が卒業してから改築してほしいという率直な意見も出されたりしました）。いろいろ思いがある中で、地域の将来を見据えた意見交換が重ねられ、計画は実現に至りました。

2校の学校づくりを通して感銘を受けたのは、子ども会組織がしっかり残っており、地域が子どもを育てるという意識の強いことでした。学校と地域の関係が深く、そういう地域の中で学校がある。地域を支え、地域が支える学校という印象を強く受けました。

両校とも、会議の部屋まで行く廊下に毎回新しい子どもたちの作品が、一つ一つを大事にしながら展示されていました。それを見るのは会議に出席する楽しみの一つでした。そこに先生方の教育の取組を感じ取ることができました。

そしてこれらの印象や楽しみは、本計画においても全く変わりがありませんでした。これが立川市における学校、学校と地域が育ててきた立川市の子育て文化と言えるでしょう。新校舎建設は、それを継承し、発展させる学校づくりでなければなりません。

## 学校づくり

私は学校の計画・設計を“学校づくり”と呼んでいます。それはただ学校の建物を建設するというだけでなく、教育あるいは子どもの育ちと施設、地域と学校の関わり合いについて、つまりソフトとハードを総合的に教職員、保護者、地域の人々が、貴重な時間を割いてみんなで語り合い、共通理解を深めるためのまたとないチャンスです。

教育活動を進める上で施設は最大の教具です。しかしそれを手に入れることができるのは数十年に一度。この機会にどういう教育を目指すか、どういうふう子どもたちに育ててほしいか、そのためには屋内外の環境・施設・設備・家具がどうあればよいか、その具体化のための設計を運営と合わせて検討することが不可欠です。

現場からの教育改革、住民からのまちづくりの機会としてとらえ、みんなの思いや夢を集め、実現するのが学校づくりというものだと思っています。

## これからの教育・新たなまちづくりを目指して

ワークショップなどを通じて学校統合や校地の選定について、それぞれの思いを持つ方々もおられることを感じました。検討委員会においては、そうした声にも耳を傾けながら、一旦重い決断をされたという状況を踏まえて、子どもたちの教育、子育て支援、地域活動の推進、学校と地域の連携のための新しい学校の姿、在り方について議論を進めました。

検討委員会では計9回に及ぶ会議、見学会、両校でのワークショップ、保護者アンケート、新校舎のイメージを絵に描いてもらう等の機会を重ねてこのマスタープランは作られました。会議前半では学校づくりの理念・コンセプト（目標とする考え方）の議論にエネルギーを費やし、1つの理念と4つのコンセプトがまとめられました。理念とする「共に学び共に育つ学校」は、協同学習や対話的学び、インクルーシブ教育等、次期学習指導要領にも謳われている学校教育の課題と、2校の統合を機会に仲間が増え、学校が新たな地域の結び付きを生み出す核となるようにという、本計画ならではの思いが合わさったものと言えます。立川流で言えば、「共に教え共に育てる学校・地域」と対になる表現と言える気がします。これは単なる美辞麗句ではありません。今後、設計が進められる際に求められる判断や決断を関係者がしなければならぬ時の基本、言わば憲法として重要な役割を果たすものです。

後半では校地や敷地条件の中での可能性について、条件の整理と配置スタディ案をもとに検討を重ねました。まずは安全な通学路の確保が必須であり、より広い地域で子どもたちを見守り、育てるまちづくりにつながるものです。もう一つは校地の中で、4つのコンセプトを実現するためにどのような配置がありうるか、その中で教育、施設、運営面にわたり目指す姿が具体的に議論されました。

## 実現に向けて

最後に、このマスタープランをもとに設計の検討を進める上で大事にしたい点について、一つだけ述べておきたいと思います。「使う」という言葉に対して、機能的に「使いやすい」計画が大切ですが、さらに「使い心地がよい」を目指すことが大切だということです。学校に当てはめれば、「学ぶ」→「学びやすい」→「学び心地がよい」、「教える」→「教えやすい」→「教え心地がよい」、「居る」→「居やすい」→「居心地がよい」、そして子どもも地域の人々も「学校に行く」→「学校に行きやすい」→「学校に行き心地がよい」（行く前から元気になる）を目標にしたいということです。

つまり、その建物の働きだけではなくて、そこで生活し、育つ子どもたち、そこで教える先生方、あるいはそこを活動の場とし、また学校を支える地域の人々の気持ちに応える学校づくりを目指したい。それはこの学校が好きだ、自慢だという気持ちにつながるはずです。積極的に新たな取り組みを生み出し、また継続する力のある学校になると思うのです。

そういう力を持つ学校づくりへの検討委員会での意見や関係者の思いを共有できるようにまとめたのがこのマスタープランです。しかしそれが実際の目の前に形となって現れるまでには、今後さらに夢を描きながら議論を重ねていかなければなりません。関係者がそれぞれの思いと覚悟をもって実現に向かって進んでいきたいと思います。

## 資料編

### 資-1 アンケートとワークショップの集計結果

新校舎建設マスタープランの策定に先立ち、両校の保護者等の意見、要望を聴き、検討を進める際の参考とするため、アンケート並びにワークショップを実施した。

#### (1) アンケート結果について

平成28年9月に、けやき台小学校と若葉小学校の児童及び保護者、若葉町の自治会長を対象に実施した。

##### ① アンケートの回収率

対象者	回収数	児童数	回収率 (%)
けやき台小学校児童及び保護者	249	494	50.4%
若葉小学校児童及び保護者	106	243	43.6%
合計	355	737	48.2%

対象者	回収数	家庭数	回収率 (%)
けやき台小学校児童及び保護者	249	397	62.7%
若葉小学校児童及び保護者	106	193	54.9%
合計	355	590	60.2%

対象者	回収数	対象者数	回収率 (%)
団体代表者	14	26	53.8%

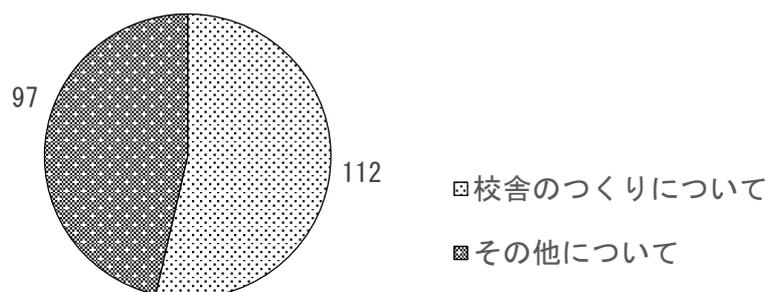
対象者	回収数	対象者数	回収率 (%)
全て（児童数+団体代表者数）	369	763	48.4%
全て（家庭数+団体代表者数）	369	616	59.9%

## ②アンケート項目

【1】新しい学校・新校舎に期待することについてご自由にお書きください。

(対象者：保護者、自治会長)

- 自由記述の内容を、校舎のつくりとその他に分けて集計を行った。その割合をグラフに示す。(記述内容は、(4)校舎のつくりについて、および(5)その他についてを参照)



- 上記結果から校舎のつくりについての意見が多いことがわかる。

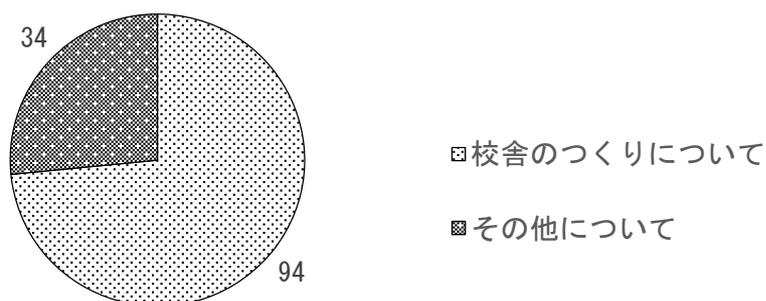
【2】新しい学校計画を進めていく中で、特に興味があるものを3つ選び番号に○を記入してください。(対象者：保護者、自治会長)

1：子どもたちの学習環境（普通教室、特別教室等）	2：子どもたちの生活環境（トイレなど）
3：特別支援教育	4：生涯学習や地域への施設開放
5：みんなにやさしいユニバーサルデザインの施設	6：地球にやさしいエコな学校
7：次世代に引き継げる長寿命な校舎	8：街のシンボル
9：安心・安全な学校	10：防災拠点 避難所機能
11：その他	

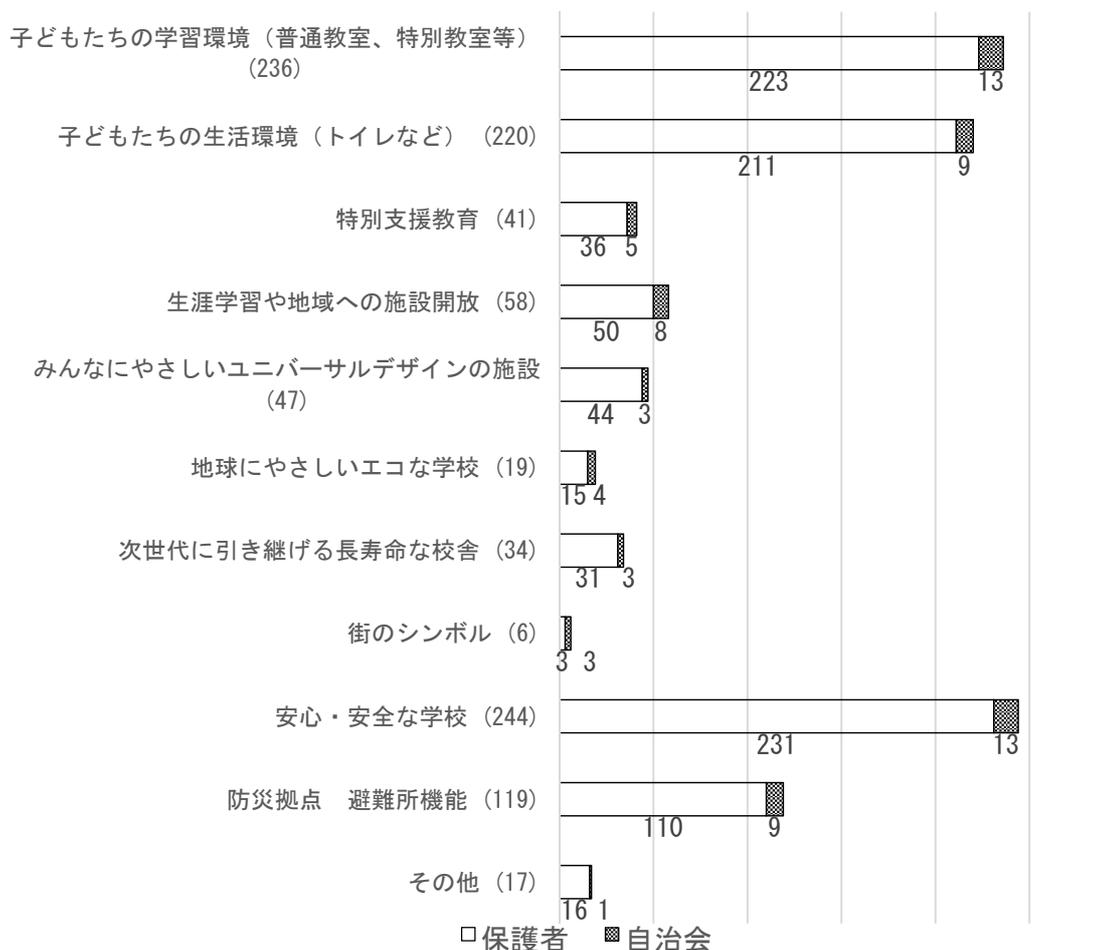
理由

[ . ]

- 自由記述の内容を、校舎のつくりとその他に分けて集計を行った。その割合をグラフに示す。(記述内容は、(4)「校舎のつくり」、および(5)「その他について」を参照)



・特に興味があるもの3つについて下記の通り集計を行った。



上記の結果から、アンケートでは

- 1：安全・安心な学校
- 2：子どもたちの学習環境（普通教室、特別教室等）
- 3：子どもたちの生活環境（トイレなど）

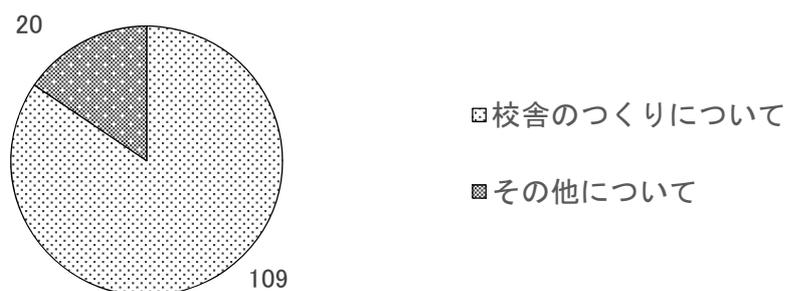
に関心が多く集った。

※防災拠点 避難所機能については安全安心と内容が重複していたため、安心・安全な学校に含まれる内容としました。

## 【アンケート裏面】（対象者：子ども）

みんなの新しい学校がこんな校舎になればいいなというみんなの考えを書いてね

- ・上記自由記述の内容を、校舎のつくりとその他に分けて集計を行った。その割合をグラフに示す。（記述内容は、(4)「校舎のつくり」、および(5)「その他について」を参照）

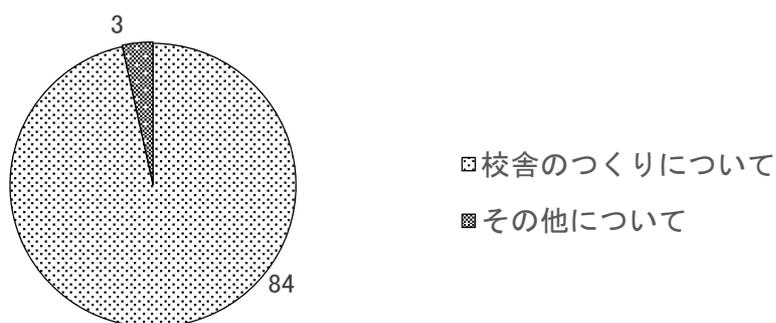


## (2) ワークショップの結果について

- ・両校の保護者を対象に、平成28年10月30日（日）午前10時から正午まで、けやき台小学校で開催した。

（ワークショップ参加数：4名、意見の数：87）

- ・ワークショップで出された意見を、校舎のつくりとその他に分けて集計を行った。その割合をグラフに示す。（記述内容は、(4)「校舎のつくり」、および(5)「その他について」を参照）



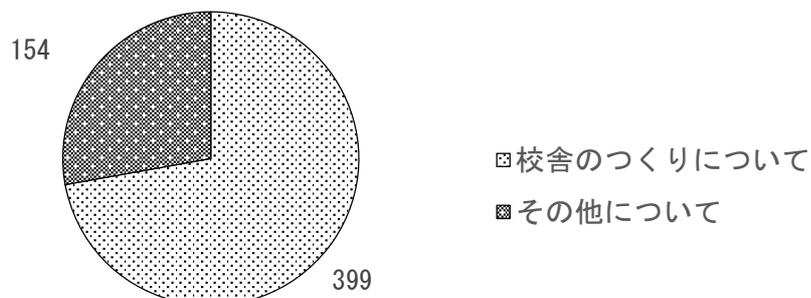
- ・ワークショップでは、校舎のつくりについての意見が多く出された。

### (3) 総括

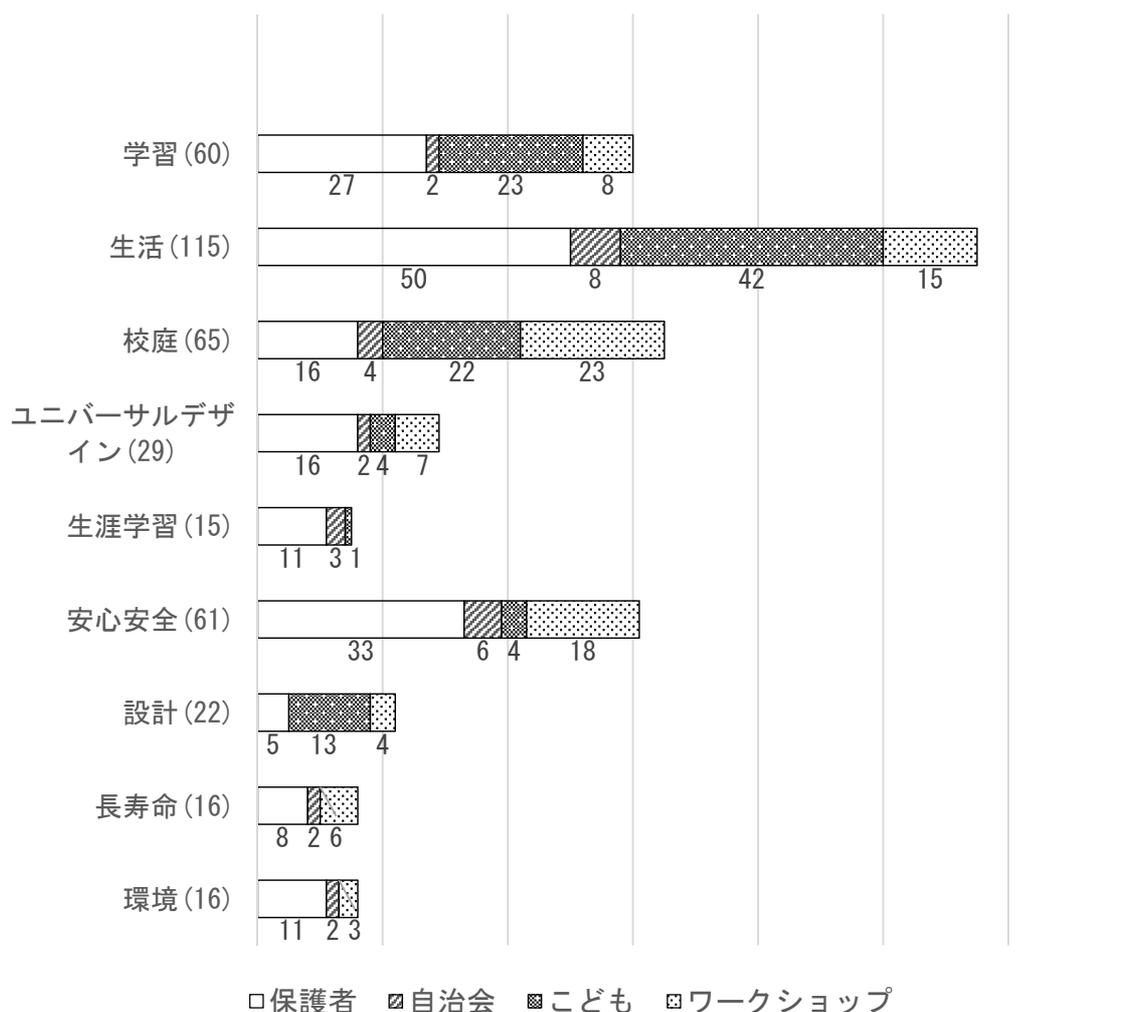
#### ① アンケートとワークショップによる意見の分類

- ・それぞれ出た意見を「校舎のつくりについて」と「その他について」の2つに分類した。割合をグラフに示す。

(記述内容は、③「校舎のつくり」、および、④「その他について」を参照)



#### ② 「校舎のつくりについて」の分析



### ③「校舎のつくりについて」の主な意見

#### I 学習について

- ・集中できる環境、図書室の充実、特別支援学級の充実、教室の中をのぞけるつくり、広い体育館、クラス、学年を超えた幅広いコミュニケーションが取れるような教室配置や空間づくり、プールの改築、紫外線防止の日除け

#### II 生活について

- ・子どもたちの収納の充実、エアコンの設置、トイレ等の衛生設備の充実、明るい校舎・教室、木質化でぬくもりのある校舎、シックハウス対策、空が見える教室、広く感じられる工夫、学校に行くことが楽しくなるデザイン

#### III 校庭について

- ・広い校庭、水はけの良い校庭、校舎に近い菜園、動物とのふれあい、山やトンネル等遊具の充実、屋上を校庭として補助利用、校庭の芝生化

#### IV ユニバーサルデザインについて

- ・EVの設置、体格差に応じた設備、バリアフリーな校舎

#### V 生涯学習について

- ・地域の方が使える、コミュニティの場所、放課後の校庭開放

#### VI 安全安心について

- ・通学路の安全性向上、目の行き届くつくり、地震や災害に強い学校、地域利用について不特定多数の方が出入りすることに対する不安がある、朝の校門が開くまでの敷地内の待機スペース

#### VII シンボルについて

- ・子どもたちが自慢に思えるデザイン、次代に引き継ぐ校舎。

#### VIII 長寿命について

- ・メンテナンスがしやすいつくり、教室数の変動に対応できるつくり

#### IX 設計について

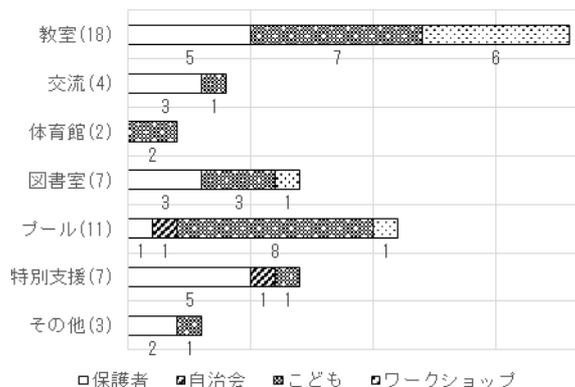
- ・卒業後懐かしむコーナーの設置、二校の良さを引き継ぐ学校。

#### X 環境について

- ・高断熱化、緑の多い校舎、環境について考える事ができる学校

## ④「校舎のつくりについて」の記述

## I 学習について



## ○教室

- ・最近、オープンスペースになる教室が作られているようですが、隣のクラスの声が聞こえたりして、勉強に集中できないとも聞きます。
- ・子ども達が授業に集中できる作り。(仕切りが無く、オープンな感じは、聞こえはいいが、今の子ども達には向かない。と聞きます。)
- ・時代に合わせた教室や教材、設備であると良い。
- ・授業を妨害する子をクラスとは別に授業を行うことが可能な教室を作る事などを考えて頂きたいです。
- ・天井の高さや窓の大きさ、子ども達の見線どのくらいのものが落ち着く、集中できる高さ、大きさ、広さなのか専門家に分析して欲しい。
- ・電子黒板。
- ・タブレット授業ホワイトボード。
- ・教室にソファ。
- ・物を映すテレビが大きいと良いな。
- ・子ども用の黒板コーナーもしくは、壁や床に落書きできるような部屋が欲しい。子どもが、掃除のときにそこを消す。
- ・集中して勉強できるように校舎の大きさを変えないまま、広々とした空間を作って欲しい。
- ・オープンスペースが多い学校にして欲しい。
- ・教室の中をのぞけるように。
- ・開放的な教室づくり。
- ・目の行き届くづくり。
- ・授業中、集中できる環境として、隣の教室の音が聞こえにくいづくり。
- ・第一小学校では、オープンなづくりで、気が散る。

## ○交流

- ・クラス、学年を超えた幅広いコミュニケーションが取れるような教室配置や空間作り。
- ・人とのコミュニケーションが取りやすい校舎。
- ・普通教室と特別教室をあまり分離させず、色々な個性の人々が同じ学校にいられるようにして欲しい。
- ・友達とお話できる談話室が廊下と教室の間にある。

## ○体育館

- ・人数が多くなるから、体育館を広くして欲しい。
- ・体育館が広い。

## ○図書室

- ・図書室の充実、パソコン室の設置等。
- ・図書室も子ども達が自ら行きたくなるような雰囲気やコーディネート。
- ・図書室が暗い感じなので、日光の当る、明るい部屋にして欲しい。
- ・図書室では、CDの貸し出しがあると良い。
- ・図書室の本がいっぱいと良いです。
- ・図書室の本を高学年向けの小説等置いて欲しい。
- ・図書室などは絨毯敷があると良い。

## ○プール

- ・温水プールでもよい。シャワーは温水も出る様に。
- ・出来れば、プールも作り変えて欲しい。
- ・屋内プールで年中入れるようにして欲しい。
- ・プールと校舎を近くにして欲しい。
- ・ソーラーパネルを設置、温水プールにして欲しい。
- ・プールの水をもっとぬるくして欲しい。
- ・プールに屋根。
- ・プールが二個もあるのに、一個しか使っていないのは勿体ない。
- ・プールに屋根があつて雨の日でも入れると良い。
- ・プールの更衣室をもっと広く、綺麗に、プールの近くに設置して欲しい。
- ・屋上にプールを設置する場合は、紫外線防止の日除けが欲しい。

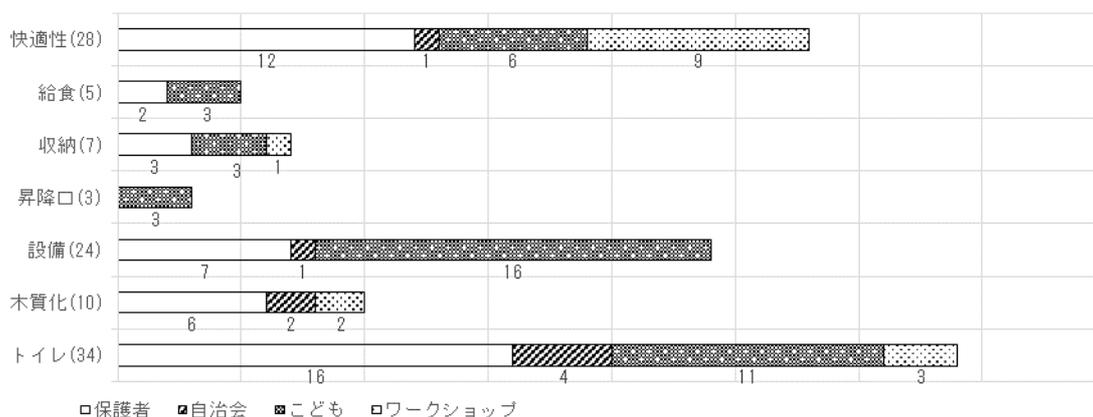
## ○特別支援

- ・今後、特別支援(発達障害など)を必要とする子どもは、確実に増えるため、普通級で生活する子ども達と一緒に学べるような施設(学校)希望。
- ・特別支援学級の体制が変わる事に配慮した環境を整えて欲しい。
- ・低学年の内から自然に交流できる場がある。
- ・特別支援学級との交流の場を組み込んで欲しい。
- ・弱者に対する優しい心を持つためにも、また、支援を必要とする子どもが伸びるためにも交流が必要。
- ・給食を共にとれる食堂スペースなど、学年を超えた交流の場を組み込んでいただきたい。
- ・たんぼぼ学級とのふれあいを残して欲しい。

## ○その他

- ・様々な体験ができる設備の充実。
- ・普通教室は、廊下側の壁を窓にし、歩いている人が常に教室内を見ることができるようにする。
- ・音楽室と図書室を離して欲しい。

## Ⅱ 生活について



### ○快適性

- ・体育館などの女子更衣室が欲しい。
- ・使い勝手の良い教室。
- ・授業中、集中できる環境。
- ・明るい校舎内。
- ・教室や校庭、トイレの快適さ。
- ・ストレスのない環境を整えたら子ども達の心も広くなると思う。
- ・集中出来ない子どもが増えているようなので集中できる学校教育を。
- ・明るく、オープンな教室がいい。
- ・落ち着いた環境で過ごして欲しいため、壁や床の素材や色は一度作ると中々変えられないので、心理的効果を取り入れて欲しい。
- ・子ども達がのびのびと快適に過ごせるのが一番いいと思います。
- ・平成という時代の中で新しい発想で、子ども達が楽しく過ごせるデザインなど考えていけると良い。
- ・学校に行くことが楽しくなる様なデザイン、施設。
- ・明るく、清潔な校舎。
- ・広い教室。
- ・人数が多くなるから、教室を広くして欲しい。
- ・どんな子でも静かに授業が受けられる教室、環境。
- ・カーテンがおしゃれ。
- ・裸足で過ごすことができる開放的な校舎。
- ・明るく、開放的な学校。
- ・子どもがのびのびと成長する学校。
- ・明るい教室がよい。子どもたちは暗いと恥ずかしいという気持ちになる。
- ・けやき台小の6年はキツキツで授業をしている。
- ・空が見えると気持ちが良い。
- ・広く感じられる工夫をして欲しい。
- ・トップライトを付けた際に熱くなりすぎない配慮をして欲しい。
- ・体格差に配慮して欲しい。
- ・シックハウス対策をして欲しい。
- ・通気性の良い環境。

### ○給食

- ・自校給食、ランチルームにして欲しい。
- ・食堂があって他クラスや他学年とも給食を一緒に食べられるようにして欲しい。
- ・学校で給食を作る。
- ・自校給食。
- ・給食を学校で作って欲しい。

### ○収納

- ・廊下に袋物を掛けなくても良い様に収納が欲しい。
- ・廊下のフックを使い易くして欲しい。ロッカーを大きくして欲しい。
- ・給食当番のエプロンをハンガーで掛けて置ける(クローゼットのような所)スペースを設けて欲しい。
- ・教室のロッカーを大きくして欲しい。
- ・廊下のフックはすぐ物が落ちて役にたたない。
- ・ロッカーが広くて、ハンガー、棚、カバンがおけるようなロッカー。
- ・廊下に荷物があり、危なく、汚い。収納スペースを考えて欲しい。

### ○昇降口

- ・下駄箱の場所が混むので、広くして欲しい。
- ・下駄箱を扉付きにして欲しい。
- ・下足場をもっと綺麗にして欲しい。ロッカーの様にふた等を付けたらほこりも少なくなる。

## ○設備

- ・エアコン、校庭にスプリンクラー等の暑さ対策。
- ・体育館に冷房の設置。プールのシャワーを温水に。
- ・全教室、体育館まで冷暖房。
- ・インターネット、LANなどのデジタル関連を始めとするハード面での学校設備の充実。
- ・空気清浄機の設置。インフルエンザウィルスの予防。
- ・机がガタガタする机などを新しくして欲しい。
- ・全てにおいて最先端の設備をお願いします。
- ・冷暖房付きの教室にする。
- ・体育館が暑いから、涼しい方が良い。
- ・全ての教室にエアコンをつけて欲しい。
- ・クーラー等の温度調整が万端で雨の日も楽しい施設。
- ・端っこの4年1組は、クーラーをつけると、暖房が出てきて、暖房をつけるとクーラーが出てくるような、壊れた教室は嫌だ。
- ・水道は自動が良い。
- ・水道の高さを低いのと高いのを付けて欲しい。
- ・水をおいしくして欲しい。
- ・水道の水がもっとうまくなって欲しい。
- ・チャイムや放送がどこにいても聞こえると良い。
- ・防火扉がすぐ開くから工夫して欲しい。
- ・ドライヤーのある学校。
- ・机はテーブルで1つか2つのテーブルに皆で座る。
- ・椅子はクッションでふわふわ。
- ・パソコンがラップトップ。
- ・床はカーペット。
- ・一クラスに掃除機が欲しい。

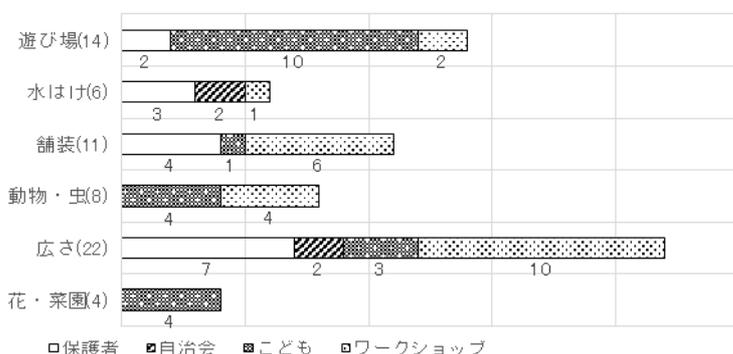
## ○木質化

- ・近代的な建物も良いが、出来れば木のぬくもりを感じられる校舎が良い。
- ・一部の教室などで構わないので木のぬくもりを感じられる校舎にして欲しい。自然と調和した環境作り。
- ・壁や床が木目、又は、優しい色彩が良いと思う。
- ・コンクリート感のある建物ではなく、若葉町らしい、木のぬくもりや、緑が感じられる建物にして欲しい。
- ・普通はコンクリートに色を塗る。タイルを張るところを例えば、木材で仕上げる等、温かみのあるデザイン。
- ・例えば、木をふんだんに使用した校舎にする。
- ・各教室や廊下、階段等を含むスペースを規格的にゆとりを持たせて欲しい木材など多用するなど、温かみのあるデザインにして欲しい。
- ・コンクリートのみでなく、温かみのある木目を使用すると思う。
- ・木材を使って、ぬくもりのある校舎。
- ・多摩産を使用し学習にも役だてて欲しい。

## ○トイレ

- ・男子トイレの個室。音姫。
- ・男子トイレは、大と小便で分かれていると大の方に入りずらく、からかいの原因にもなるので、分けなくて欲しいです。これからは男子も個室のみで良いと思います。
- ・トイレは水洗トイレで立ってするのはいい。音ひめを付けて欲しい。
- ・和式を無くし、全て洋式トイレに。ウォシュレットの設置。
- ・小学校のトイレなので、かわいい色合いで清潔感のある、いつもきれいなトイレ。
- ・男子トイレ(小と大を区別しない配慮が欲しい)
- ・綺麗(清潔感)のあるトイレ。
- ・トイレは全て洋式で良いと思う男子も個室が多い方が大便からのいじめなどが減る。
- ・今の学校のトイレが古い汚い。今どき和式はいいから全て洋式で良いと思う。水道なども綺麗に。
- ・上履きそのまま使用する洋式トイレ明るく清潔、掃除がしやすい。
- ・トイレがとても臭う。
- ・安心して学校でトイレができる様な環境を。
- ・よく使用するトイレは、一年生でも使い易くして欲しい。ウォータークーラーなど設置して欲しい。
- ・家庭での生活環境の変化にも全てではなくても配慮が必要。トイレに関しては、児童が掃除に参加できることが望ましい。
- ・現校舎のトイレの衛生状態が良くないため、掃除の回数等見直して頂きたい。
- ・綺麗で使い易いトイレや水道場だと、子ども達も「綺麗に使おう」という意識が生まれる。
- ・トイレは、ウォシュレットにする。
- ・トイレは洋式にして、臭い等にも配慮を。
- ・トイレについて各地の最先端実例を踏まえて、子ども達にとって居心地の良いスペースにして欲しい。
- ・トイレは必ず誰でも使うので、よりよい物が必要。
- ・トイレを男女問わず、全て個室にして欲しい。
- ・トイレにウォシュレットを付けて欲しい。
- ・トイレの便座が温かいと良い。
- ・トイレを全て洋式にして欲しい。
- ・洋式トイレを増やして、綺麗なトイレにして欲しい。
- ・トイレが綺麗な学校。
- ・消臭効果のあるトイレ。
- ・トイレがもっと綺麗になると良い。
- ・トイレが汚い学校が多いので、環境を整えて欲しい。
- ・トイレをもう少し大きくして欲しい。
- ・トイレも全て日当たり良く。
- ・トイレは洋式でもよいと思う。
- ・トイレを我慢する子がいるので、配慮して欲しい。
- ・和式も少し残しても良いと思う。

### Ⅲ校庭について



#### ○遊び場

- ・校庭にアスレチックのような遊具があると良い。
- ・校庭設備の充実。若葉町の公園には、壁当てできる場所が無いので、ボール投げやテニスの練習ができる大きな壁を設置して欲しい。
- ・ボール遊びをたくさんしたい。
- ・遊具が多い学校。
- ・校庭が遊園地みたいにして欲しい。
- ・雨の日でも遊べる遊具を体育館に着けて欲しい。
- ・遊具を多めに欲しい。
- ・1、2年のために滑り台を設けて欲しい。
- ・校庭に皆が楽しめる、安全な遊具が欲しい。
- ・いっぱい遊ぶ場所が欲しい。
- ・一輪車コースを作って欲しい。
- ・ボールを蹴っても良い様にして欲しい。
- ・鉄棒、雲梯程度があればよい。複雑なものは飽きてしまう。
- ・山、トンネル等。

#### ○水はけ

- ・校庭の水はけをよくして欲しい。
- ・水はけをよくして、雨上がりに水たまりが出来ないようにして欲しい。
- ・校庭の水はけをよくする。
- ・校庭のぬかるみがひどいので、校舎の建設と併行して、地盤の改良工事を是非行ってください。
- ・校庭の水はけを考えてください。
- ・水はけの改善。

#### ○舗装

- ・芝生のグラウンド。
- ・校庭の砂の質。運動会などで砂ほこりが立たない。
- ・校庭は転んでも痛くないゴム製など。
- ・芝や緑を多くする。
- ・校庭に芝を生やして欲しい。
- ・芝生のグラウンド。
- ・校庭舗装はゴムチップとしてはどうか。
- ・芝のメンテナンスを考えると人工芝が良い。
- ・ゴムチップや人工芝では熱くなるのではないか。
- ・子どもの運動したいというモチベーションが高まる舗装として欲しい。
- ・砂の質の改良。

#### ○動物・虫

- ・動物をもっと増やして欲しい。
- ・動物小屋が広くて、動物と触れ合える場所が欲しい。
- ・ピッチの小屋が勿体ないから何か動物を飼いたい。
- ・虫がいっぱい取れる校庭が良い。
- ・ウサギやニワトリを飼っていた。
- ・生き物係を通して命の尊さを学んで欲しい。
- ・草むらで昆虫採集。バッタ等。
- ・生き物に触れることで情緒を育てる事ができる。

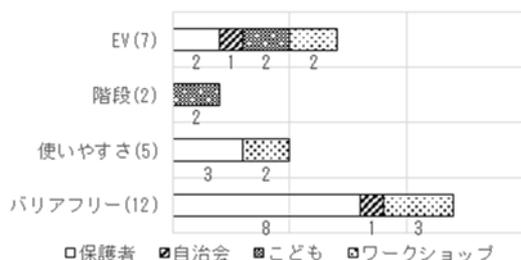
#### ○広さ

- ・屋上に行けるようにしたい。
- ・生徒数のわりには、校庭が狭くなるので、屋上なども有効に使えるようにして欲しい。
- ・子どもの遊び場、思いっきり身体を動かす広場等が近くにない。
- ・運動場は広くして貰いたいです。
- ・校庭が狭くなりそうなのでのびのびと体を動かせる場所の工夫(校舎内、屋上等)を取り入れて欲しい。
- ・校庭を広く使うためプールを体育館か校舎の中に作って欲しい。
- ・人数が多くなるので、校庭が広く使えるように。プールは体育館の上下又は、屋上に。
- ・建物を少々高くしても運動場を広くして、子供達が運動をして体力作りができる様に。
- ・運動場を全校児童が充分運動できる場所を確保することを望みます。
- ・校庭を凄く広くして欲しい理由は、けやきが入ると運動会のテントとか入る場所が狭くなる。
- ・屋上に自由に上がれるようにして欲しい。
- ・人数が多くなるから、校庭を広くして欲しい。
- ・屋上を校庭の補助としてはどうか。
- ・4階建ての場合は、4階から校庭に出る時間がかかるため、遊ぶ時間が少ない。
- ・4階の子どもの遊び場として屋上利用。
- ・屋上に屋根を付けて体育館の補助として使用。
- ・屋上は人の目のあるところが良い。
- ・屋上の利用にあたり、シノビ返しや、壁の設置で安全に遊べるように。
- ・中間階に遊び場があると良い。
- ・屋上は安全に使えるように。
- ・人数に対してグラウンドが狭くなる。
- ・のびのび育つための運動スペースの充実。

#### ○花・菜園

- ・学校の周りに花を育てたい。
- ・花壇や畑をもっと増やして欲しい。
- ・木や畑を作って欲しい。
- ・明るく、お花等が植えてあるようなかわいい学校にして欲しい。

## Ⅳユニバーサルデザインについて



### ○エレベーター (EV)

- ・EVが必要だと思う。(障害のある子や怪我のある子が利用できるもの)
- ・怪我をして松葉杖で登校してくる子や車いすで登校してくる子も今後いると思うし、中学校にEVがある所もあるので、設置して。
- ・高層建物にするつもりならEVも必要。
- ・EVかエスカレーターがある学校。
- ・EVがある。
- ・4階の教室が遠いのでEVの導入をして欲しい。
- ・高層階になる場合はEVを設置して欲しい。

### ○階段

- ・階段を少なく。
- ・階段の段を低くして欲しい。

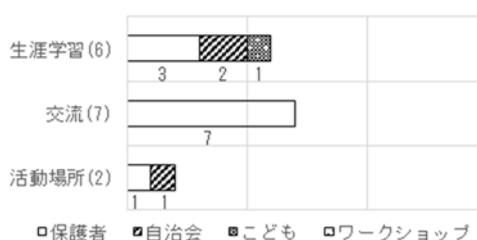
### ○使いやすさ

- ・PTA活動をする際に小さい子連れの保護者のためにおむつ替えスペースや幼児用トイレ、小さいプレイルームなどあれば普通の学校行事でも生かせるし安心だと思います。
- ・みんな=子ども達にとって、使い易い工夫された施設であって欲しい。
- ・校舎内がすっきりする。万人が使い易い。
- ・複雑な作りにしないで欲しい。
- ・分かり易い校舎。

### ○バリアフリー

- ・廊下を車いすなど通れるようにバリアフリー化。
- ・保護者、児童の身体障害を受け入れられる学校。
- ・子ども達が使い易く、移動しやすいように。
- ・バリアフリーなどを考慮した、オープンカレッジ的な校舎にして欲しい。
- ・地域の方々も参加できるようにソフト面もハード面もバリアフリー一部だけでなく出入り口は全てバリアフリーに。
- ・同学年で車いすの児童がいたが、設備面では過ごしくそうだった。バリアフリーが良い。
- ・行事とかで色々な人も来ると思うのでユニバーサルデザインの方が良いと思います。
- ・体が不自由な人も分け隔てなく過ごして欲しい。
- ・少子高齢で他の世代も活用できるユニバーサルデザインで多機能な校舎。
- ・エスカレーターはいらない。
- ・みんなが協力しあえる環境。
- ・バリアフリーな校舎。

## Ⅴ生涯学習について



### ○生涯学習

- ・この先のことを考えて地域の方が使えるコミュニティの場所としても考える。
- ・子どもが少なくなっている中、空いている教室を有効活用し、学校と地域が身近な関係になるのは、学校や地域にとってプラスだと思う。
- ・放課後、学習やスポーツなどを学校でできるなら親はとても安心である。
- ・若葉町の子ども会は、小学校と、とても密着しているし、行事も学校を利用します。ぜひ、活動するための室、及び倉庫が必ず必要です。
- ・現在、けやき台小は、施設が自由に借りられないことがある。
- ・地域の人も自由に出入りできるお年寄りの憩いの場。

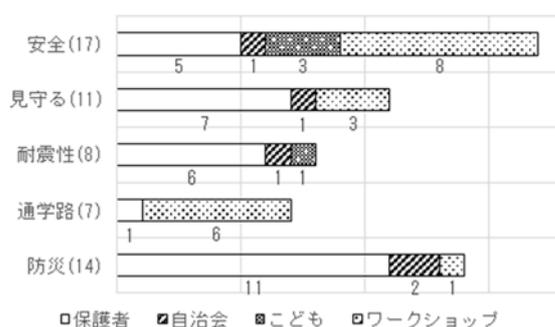
### ○交流

- ・子ども達と一緒に学んだりスポーツを楽しめる開放的な施設。
- ・地域スポーツでは、学校体育館、校庭を多く使用しています。地域スポーツの発展とコミュニケーションの場としての施設利用への配慮。
- ・小学生が家族にいらなくても、関係なく小学校を利用できる事が地域との繋がりに続き、より開かれた環境になり良いと思う。
- ・高齢者等、地域の人々と触れ合う空間があれば良い。
- ・地域の方々との交流があれば良いと思います。
- ・色々な立場、年齢の人が身近に感じられる方が他人の立場を自然に考えられるのでは。
- ・保護者もいつでも見学できるといい。

### ○活動場所

- ・中高生や大人が自主学習できる場があると良い。
- ・地域に高齢者が多いため、生涯学習等、高齢者が利用できる機能があればより良い。

## VI安全安心について



## ○安全

- ・現在の床は、ツルツルし過ぎているので材質を変えたらどうですか。
- ・教室や廊下のガラスは強化ガラスで飛散しにくい物。
- ・建築材などの安心、安全も大切。
- ・大通り見通しの悪い道路における安全の確保。
- ・校門の位置、車の出入りなど安全を確保しつつ検討して欲しい。

- ・崖が倒壊しないようにする。
- ・階段が雨の日だと滑るから石の階段以外が良い。
- ・廊下の幅が広いと良いです。
- ・耐震化窓ガラス、網入りガラス、飛散防止窓回り固定床を木にして欲しい。
- ・階段を広く確保して欲しい。
- ・階段や避難経路は法規だけでなく子どもの動きも考えて欲しい。
- ・一斉に避難する際の階段の幅を広く確保して欲しい。
- ・階段が広がると、手すりを持たない子が出てくる場合があるため、安全に配慮して欲しい。
- ・2方向避難の確保。
- ・安全に避難できるようにして欲しい。
- ・15分の休み時間なので、昇降口が混雑する。校庭に出やすいつくり。
- ・朝8時前に校門があくまでの待機スペースが敷地内にあると良い。

## ○見守る

- ・不審者から守れる校舎の在り方を考えて欲しい。
- ・不審者が侵入した場合、子どもは狙われやすいため、職員室は1Fへ配置して欲しい。子どもたちは全クラス2F以上が望ましい。
- ・防犯対策がしっかりしてる。
- ・校庭と体育館同時に目が行き届く作り。
- ・防犯カメラの設置、センサーなどの設置。
- ・セキュリティの強化について考えて貰いたいから。
- ・まずは、安心安全が第一。先生や大人の目の行き届くような構造にして欲しいです。
- ・目が行き届く様な建物構造にして下さい。
- ・地域利用について不特定多数の方が出入りする事に対する不安がある。

- ・セキュリティはしっかりと確保して欲しい。
- ・敷地周囲をフェンスでなく、生垣で覆うと良い。

## ○耐震性

- ・耐震、安全性。
- ・校舎の設計、材料など安全性を考えて耐震性など。
- ・地震で校舎が崩壊したりする危険があるため。
- ・地震や災害に強い学校が良いと思います。
- ・地震など災害対策。
- ・地震のことを考えると丈夫な建物にして欲しい。
- ・大地震に備えて、安全な学校。
- ・何があっても崩れない校舎。

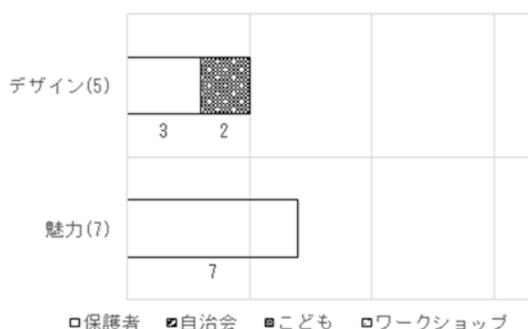
## ○通学路

- ・西側にも門を作って欲しい。(幸町エリアから通っている児童も多数いるため)
- ・安心安全に通える校舎。
- ・帰りの時間の安全性。だんだん暗くなる。
- ・どれくらいの車が通るか交通量調査をしてほしい。
- ・敷地北西の交差点がスピードを出す車が多く危ない。
- ・車が多い。
- ・通学路が安全になるように検証して欲しい。

## ○防災

- ・学校としてだけでなく、避難所や防災の拠点としてもしっかりとした建物にして欲しい。
- ・災害時、地域の拠点となる機能も備えた計画。
- ・災害の時に皆が避難出来て何か良い対策があれば嬉しいです。
- ・災害時に地域で使用できる事を考えるとトイレなどの設備も大事になる。
- ・生活環境を整えれば避難所になった際、地域の方々の幅が広がる。
- ・避難所として必要な物資も保管できる部屋があれば良いと思う。
- ・若葉地区には、大きな避難所は学校しかありません。防災拠点として、しっかり機能するものにして頂きたいです。
- ・若葉町は、大きな団地が二つあり、住民の避難を考えると、学校は重要な防災の拠点となるのできめ細かく考えると良い。
- ・温暖化等により異常気象が増えているので、災害に強い建物である事と、防災拠点としての備えが必要。
- ・避難した場所でストレスのない環境を確保して欲しいです。
- ・災害時も安全が保てる校舎なのか大人数の中、全生徒の安全、安心して過ごせるのか。
- ・けやき台小学校避難所運営委員会からの強い要望で、マンホールトイレの数を現在の数より増やして下さいとのこと。
- ・防災倉庫を一階に確保し、避難所としての機能にも配慮願いたい。
- ・若葉小跡地の利用と若葉小の避難所の利用について。

## VII シンボルについて



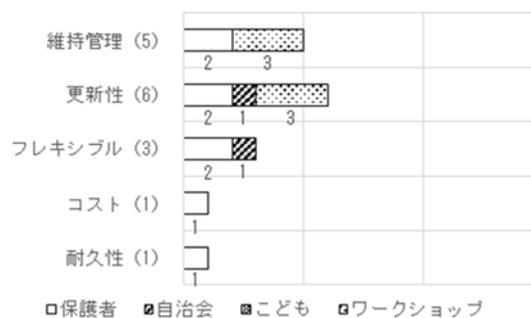
## ○デザイン

- デザイン性があり、子ども達が自慢に思える校舎。
- 派手なものではなく、子ども達にとって学校の意味をよく考えて、優先順位を考えて、後悔のないよう計画してください。
- 奇抜なデザインの遊び場が、デパートやショッピングモールの中にありますが、海外のデザイン、色調は日本の子どもは落ち着かないような気がする。
- 綺麗な学校。
- 白い校舎が良い。

## ○魅力

- シンプルさ。
- 若葉町のシンボルとなり、町の価値が上がるような小学校が良いと思います。
- 若葉町に移転し、新しい学校に通わせたいと思っただけの魅力ある学校にして欲しい。
- 次世代に引き継ぐ校舎にしたいと考える。
- 町田市の多摩境に数年前にできた学校の様な、今まで立川市に出来て無い様な学校。
- 新しい学校を造るのだから。
- 子ども達だけでなく、地域の人達の安心につながるようなものにして欲しい。

## VIII 長寿命について



## ○維持管理

- 掃除がしやすい作り。
- メンテナンスしやすく。
- 畳などは交換しやすい作りとして欲しい。
- 掃除しやすい作りとして欲しい。
- メンテナンスのしやすい校舎。

## ○更新性

- 様々な用途に使用できるような作り。
- 未来のニーズに合う学校、設備があること、多目的スペース等。(建物)
- 子どもの数が減った時に、空いた教室をどう利用していくのかを、今の内から考えておくと良い。
- 余裕教室はあったほうが良い。
- 30~35人学級とした場合でも教室数が不足しないようにして欲しい。
- 教室数の変動に対応できるつくり。

## ○フレキシブル

- 通う子ども達が増えると思うので教室は多めに作った方が良くと思う。児童の人数に合った広さの教室。
- 今後の子ども人口の増減を見込んだ上で、将来的に空き教室など出さぬ様工夫して欲しいです。
- 教室も余裕が欲しいークラスを二つに分けるなどに対応するため。

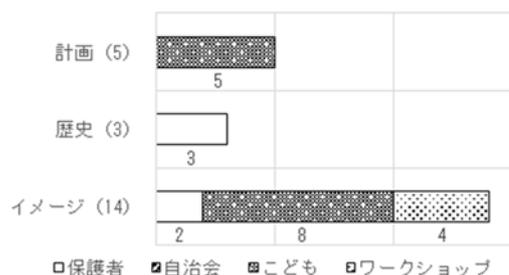
## ○コスト

- 何度も建て替えるのはお金の無駄。

## ○耐久性

- 時間が経過しても見苦しくないデザイン、材質のものにして欲しい。

## Ⅹ設計について



### ○計画

- ・渡り廊下を二階だけでなく、三階にも付けて欲しい。
- ・地下室が欲しい。
- ・北校舎：一階、家庭科室、理科室、第一図工室二階、第二図工室、図書室、会議室 三階、連絡室、音楽室、第二音楽室、実験室四階、第一倉庫、第二倉庫、第二理科室。
- ・南校舎：一階に事務室、職員室、校長室、放送室、保健室 二階に機械管理室、会議室、第二会議室、備蓄倉庫三階、一年教室、二年教室、三年教室、渡り廊下四階、四年から六年教室、渡り廊下五階、屋上。
- ・色が鮮やかな色。(水色とか)

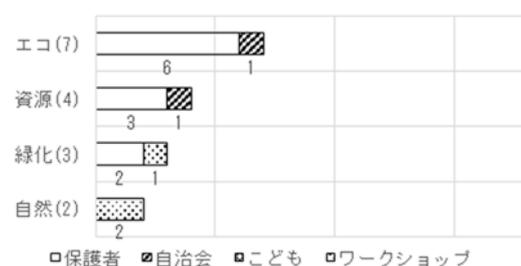
### ○歴史

- ・けやき台小学校、卒業生として、新校舎にも、旧校舎の影を残して欲しい。
- ・同窓会室があるのは何処でしょうか？両校の卒業アルバムや周年記念誌などを保管しておくなど、しばらくは心の拠り所にもなるのではと思います。
- ・卒業後、けやき台小を懐かしむコーナー(写真展示、開放資料館)などがあると、新校舎に入れない子どもにとっても楽しみな校舎になるのでは。

### ○イメージ

- ・両校があった事が思い出されるような学校になって欲しい。
- ・統合後、二校の良さ、伝統を引き継ぐ学校となって欲しい。
- ・忍者屋敷のような学校。
- ・埼玉県の宮代町立笠原小学校みたいな学校。
- ・カフェテリアが欲しい。
- ・購買部を設置して欲しい。
- ・皆が仲良しな学校。
- ・他の学年とも仲良くしたい。
- ・現在の若葉小の様に、学年関係なく遊べる学校であって欲しい。
- ・学習環境は色々な子どもがいて当たり前、障害がある人を分けるような分け方は行わないように。
- ・のびのびした若葉小。
- ・団地沿いの木々が街の雰囲気を作っている。
- ・若葉小では、親と子どもの顔が一致するため、コミュニケーションがとりやすい。
- ・若葉小では、親と子どもの顔が一致するため、地域で育てている感覚がある。

## Ⅹ環境について



### ○エコ

- ・健康面からも校庭の芝生化、窓ガラスの高機能性(防音、UVカット、断熱等)、エアコンや加湿器の適切な使用をお願いしたいです。
- ・風通しの良い、トイレが明るい校舎。
- ・子どもにやさしいエコで安全な新校舎を望みます。
- ・環境について考える事ができる学校にして欲しい。
- ・子どもの頃からエコに取り組んで欲しいから。
- ・エネルギー問題など、公共施設から率先して取り組んで欲しいから。
- ・ペアガラス等を使って、断熱に配慮。

### ○資源

- ・太陽光などのエネルギー設備を設置する。
- ・太陽光発電LED電器を取り入れ資源の大切さを学べる学校。
- ・せっかく新設するのだから太陽光パネルや雨水タンクなど取り付けてみては？
- ・屋上に太陽光発電を付けて欲しい。

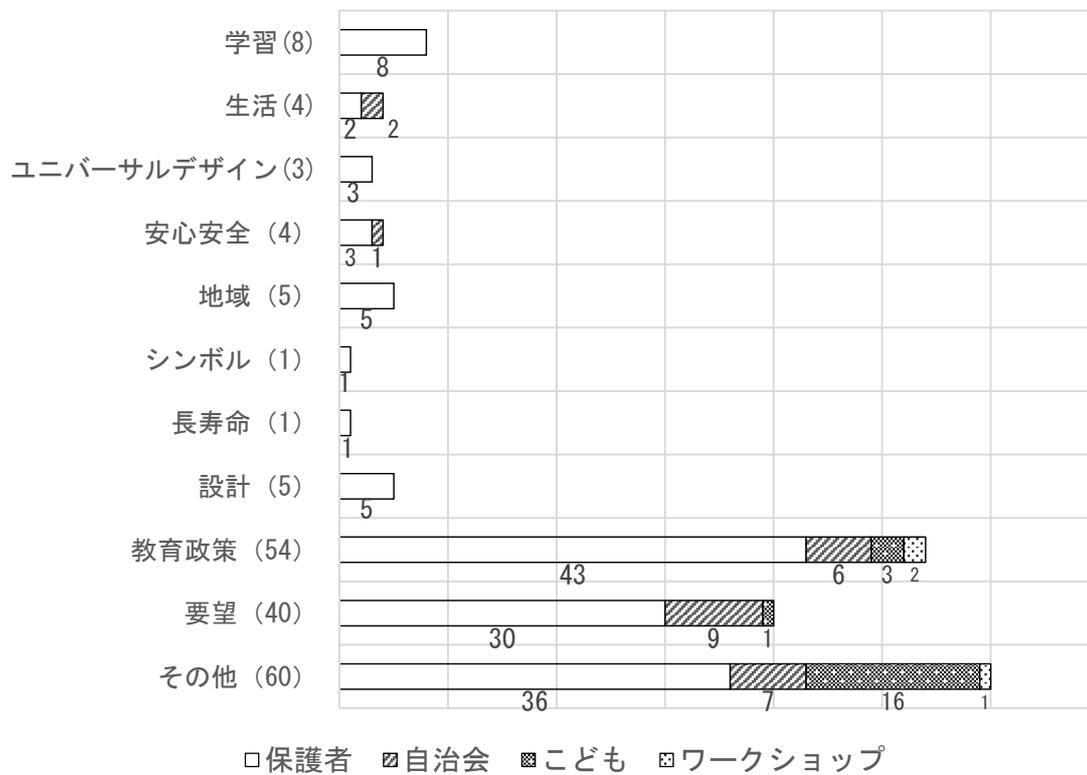
### ○緑化

- ・緑の多い校舎。
- ・分かり易い校舎。使い易く、環境の良い、緑の多い学校を希望します。
- ・学校くらいの緑があると良い。

### ○自然

- ・若葉地には、自然がたくさんある。
- ・砂、土、木に触れられる環境。

## ④「その他について」の分析



## ⑤「その他について」の記述

### I 学習

- ・語学力、考える力、コミュニケーション力などを身に着けられるような教育。
- ・子ども達が学んでいる姿が見える教室。
- ・学習環境が良ければ子ども達の勉強や、スポーツなどの取り組みもいいと思います。
- ・地域との交流の大切さは分かるが、やはり日々の授業を落ち着いてしっかりと受ける環境になることが重要と思うから。
- ・子ども達が学校へ行きたいと思う環境。
- ・新しい学校になって在校生は不安も多いはず。環境を整えて、わくわくできる様な、通いたくなる様な学校になればと思います。
- ・障害がある子どももいると思うので、その子にあった教育(勉強)が出来て、支えがあった方が良くと思います。
- ・子ども達個々に合った支援教育の強化を希望。

### II 生活

- ・子どもも大人(先生方)も皆楽しく過ごせる学校。
- ・心豊かになれる学校作りをお願いしたいです。
- ・良い環境の中で、子どもたちがのびのびと生活できることを期待しています。
- ・建物は安全で快適であれば良い。一番重要なのは子供達が楽しく、明るく、健康に学ぶこと。

### IIIユニバーサルデザイン

- ・特別支援や生涯学習等使用することを視野に入れるなら、ユニバーサルデザインも取り入れるべきだと思う。
- ・障害の子への理解これが出来ない子への安心を与えてあげ、親も安心して通わせる学校へ。
- ・良いデザイン(機能)に囲まれることは、一生の宝だと思います。ユニバーサルデザインは、使う人への配慮であると思いますし、それに気がつかされるものであると思います。

### IV安全安心

- ・親が気軽に相談できる相手(指導)が必要 子どもが安心して生活できること。
- ・地域にとって安心できる場所。
- ・若葉町の子ども達のみならず、地域の全ての方々にとっても役立つ場。
- ・防災の上でも地域の人達をサポートできる仕組みづくり。

### V 地域

- ・閉鎖的でない校舎。地域の方々も自由に行くことのできる、良い意味で敷居の低い学校。
- ・学校の一部を地域の方に施設開放して、身近な関係になることにより、地域全体で子ども達を見守る意識が強くなると思う。
- ・地域の日、教育相談など、施設を置き、学校以外からの視線から守る協力体制も必要。
- ・地域との交流スペースがあると良い。お年寄りとのふれあいなど。
- ・団地のお年寄りを招いて子どもと食事会や何かするにも対応しやすいと思います。

### VIシンボル

- ・小学校が街のシンボルになるって素敵だなと思います。子どもを大切にする社会が、みんなで子どもを見守る社会が理想。

### VII長寿命

- ・せつかく建て直すのだから、しっかり長く使用できる校舎にして欲しい。母校が無くなる寂しさを、もう子どもに味合わせたくない。

### VIII設計

- ・新校舎を建設するにあたり、できるだけ費用を抑える工夫。(例えば、旧校舎で解体した中で使えるものは使うなど)
- ・自身の出身校を失うことになるので、若葉、けやき台の卒業生が集える配慮があるとありがたい。
- ・統合しても、今の若葉小の様な少人数で授業をしたり、若葉小の良さをそのまま残して欲しい。
- ・旧校舎を思い出させてくれるような、何か大切なもの(シンボリックなもの)
- ・使い易く、誰もが行きたいと思ってくれるような学校。未来に続く素敵な学校にして欲しいです。

## 区教育政策

- ・学習しやすい環境、人数に適した施設。
- ・一クラス30人学級である事。
- ・一クラスの人数をあまり多くせず（25～26人ぐらい）全員に目が届くようにして欲しい。
- ・現在、実施されている、漢字検定と数学検定が、新学校でも受験できるようにして欲しいです。
- ・先生自身の生活に余裕が持てるような環境作り。
- ・給食を学校で調理して欲しい。出来立ての食事を食べさせてあげたいので。
- ・センター給食でなく、自校調理が良い。近くの小平十二小学校は、自校給食でおいしいと聞きます。大きな調理室があれば、災害等で避難所として使う時の炊き出しもできるのでは？
- ・先生と生徒の信頼関係があればそれで十分です。
- ・人数が増えるので教育だけでなく人間関係の面においても重点をおいて対応できる環境。
- ・これから若葉地区の子どもの増加を見越して、対応できるように先を見据えた計画にして欲しい。
- ・児童館も併設して、赤ちゃんから高校生まで皆が利用できる学校にして欲しい。
- ・学童の問題、運動場が児童数に対してかなり狭い。
- ・今後は、学童保育の不足が問題となるはず。立川市には、全国でも画期的な学校と学童保育施設の融合した建物を設計段階から盛り込み、実現して欲しい。
- ・学童を校内に作って欲しい。
- ・学童に入れる人数が増やせる教室を作って頂きたい。
- ・学童の敷地内設置。
- ・複合施設を望みます。（図書館、公民館、児童館、学童施設）
- ・人数が増える事によって、先生達がちゃんと見れるのか不安があるので大きな怪我とか、いじめが無いようにして欲しいです。
- ・様々な問題に対応できる環境、そして対処法等、ありとあらゆる物事にきちんとして頂ける様にしてもらいたい。
- ・集団宿泊がある、高学年のクラス分けは、人間関係で子ども達が悩まないようにしっかり考えて頂きたい。
- ・親が期待することは、学習指導よりも生活指導にあるということ。いじめ問題や学習進度や教育方針する。
- ・若葉小は、小規模で、先生方もきめ細かく見て下さったり、行事も少人数なりに工夫されていて、アットホームな感じを無くさないで欲しい。
- ・子ども達の気持ちに寄り添った環境や指導をお願いしたいです。
- ・今いる先生が多く残ってくださること。
- ・子ども達のモラル、いじめに対する取り組みの強化をして欲しい。
- ・親にこびを売るような学校になって欲しくない。
- ・子ども達が統合により、大きな不安を抱える事がないようにして欲しい。
- ・それぞれの校風指導方法に慣れてきた子ども達をうまくまとめあげて頂きたい。
- ・小人数校だった若葉小の生徒が八ヶ岳や修学旅行で孤立してしまわないようなクラス編成や班づくりを望みます。
- ・新しい校舎を考える事より、統合し仮設校舎の間の運動会をやる子どもたちの学校生活の方を考えて欲しいところです。
- ・けやき台小学校と若葉小学校の両校を残して欲しい。
- ・けやき台小学校で卒業できないことがとても悲しい。
- ・ラジオやテレビでもよく聞きますが、何も見ないでいるふりをしていじめが起きていることを知っているのに何もしない。
- ・大規模校になる中、一人一人のレベルに合った授業ができるのか先生の目が行き届くのかどうか。
- ・人数が増えるので、しっかりと子ども達の学習環境を見て欲しい。
- ・人数が増える分、生徒、教師、保護者がより良く過ごせるような環境を望みます。
- ・30人学級を守って欲しい。
- ・支援を必要としている子どもが増えています。通常のクラスでも過ごせるよう支援の先生の数を一学期の間だけでも増やさないと大変だと思います。
- ・生徒が増えるので各教室に先生二名で、いじめのない学校。
- ・安心、安全な学校というのは、安心という意味では、いじめのないみんなが楽しい学校にする。
- ・現在のけやき小は月1回のリラックスルームがありますが、働いていて、学童に入れていない母は少なくとも週3の放課後教室を行って欲しい。
- ・児童館を隣に作って欲しい。
- ・若葉小跡地の活用方法及び今後、地主の相続発生や都市計画道路設備に伴う宅地開発により生徒数が増加した際の対処。
- ・30人学級の実現の実現を是非お願いしたい。また、情熱のある教師であって欲しい。
- ・働く親が安心して子どもの教育を、そして放課後の活動を任せられる場としての学校が必要です。
- ・新しい新校舎に新たな役割を与える必要があり、従来の小学校に併設して1年から6年まで、希望すれば全員が入れる学童保育所を実現してください。
- ・生徒が放課後、継続して使用できる居場所、児童館等を一緒に備えると良いと思う。
- ・大規模な学童保育所の設置希望。
- ・知力を高めるために、ボランティア支援による補習が受けられる学童保育所を併設。
- ・給食の牛乳をお茶にして欲しい。
- ・給食はバイキング。
- ・校舎の形よりも、放課後の受け入れ。
- ・統合がイベントになるようにして欲しい。

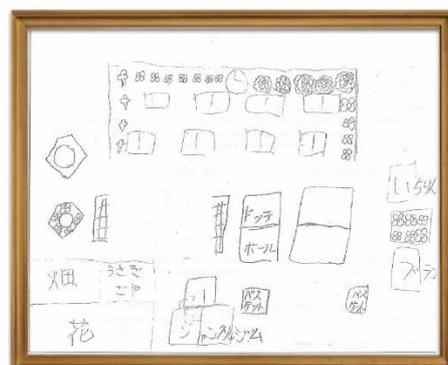
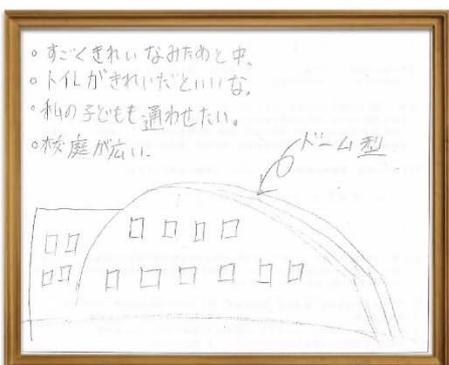
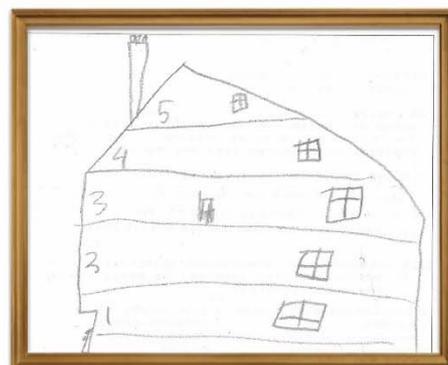
## X 要望

- どの子どもも正当に公平に授業を受ける事ができる学校。
- 食堂も作って、孤食を防げるように夕方や長期休み時に利用できるように。
- 配慮が必要なお子さんには支援して頂き、元気に安全に通える学校にして頂きたいと思います。
- 遠くなるので安心に通えるようにしてほしい。五日市街道の整備など。
- 通学路の安全、保護者と地域だけでは荷が重すぎる。市は丸投げしないで欲しい。
- 登下校見守りメールの導入。
- 新しい校舎ができる頃には卒業なのですが、若葉小に通うのが心配です。
- 通学路の選定、通学路の安全確保。(五日市街道の横断経路)
- 通学路の安全を確保してほしい。
- オープンスペース(ヤオコーのコーヒーコーナーではなく、小学校のオープンスペースで中学生がたむろするとか面白いかも)
- 子ども達が安心して学べる様、お願いします。
- 教員の人数も増やし、目が行き届く様にして欲しいです。
- 地域の方々も利用できるようになると嬉しい。(交流や生涯学習など)
- PTAの負担が多すぎる。今時、両親働いているので、学校運営を考えて欲しい。
- 校庭や体育館は授業以外でも地域で活用しやすくして頂きたいです。
- 市役所で業者の提案だけで決めるのではなく、業社の提案を受ける前に学校の先生方、保護者の意見で仕様を決める等市役所の調整に期待する。
- 特別支援学級教室など環境が変わらず学習できるようお願いします。
- 若葉小の支援教室、けやきのきこえとことば、通級のつばさ、などがどのようなになるのか？3つのタイプに分けて存続するのか。
- 今、きこえとことばの教室は順番待ちがすごくてなかなか入れない。また、立川市は通級があふれすぎていて、どこもいっぱい。
- まずは、安心して通える環境が整わないと、学習意欲の向上には繋がらないと考えます。
- 生徒が五日市街道を横断するに当り、通学路の安全を地域保護者、シルバーさん、行政等が力を合わせて対応してほしい。
- 広範囲の子ども達が通学するため、通学路の安全確保。
- 子どもを安心して送り出せる環境又は、校内だけでなく通学中も安全を最優先に考えたい。
- 見守りメールを導入している学校もある中で、まだ導入されていない。
- 防災、避難所の徹底を義務づけて欲しい。
- 今の時点でけやき台小は避難所には適してるとは言えず、もしもの時のマニュアルも含めて準備してほしい。
- 災害時にいる可能性が高い場所だから。
- 統合し、学校として廃止されるが、防災拠点として、教室、体育館、調理室は再利用すべきである。
- 子ども達が危険な目に合うニュースが後をたたない中、学校が変わることに不安がある。
- 学校役員について、正直PTAは、必要か。
- 特別支援が必要な児童が増えている。
- 五日市街道を挟んでの登校は危険であり、けやき台小学校へは、遠くなる。
- 若葉小地区の避難所が無くなるのでは、困る。
- 市民のボランティアが、補習を手伝うべき。
- 第一小学校の卒業生、先生、生徒、保護者等、実際に使用した現場の意見を最大限、反映してほしい。
- 若葉小学校の跡地利用については、長年支えてきた先輩の心をくんで最大限地域の意見を反映してほしい。
- この場所で新しい校舎で勉強ができる子供達の幸せのためにも一番の場所だと考えます。
- 一つの小学校になることによって、将来的には地域住民にとっては、非常にプラスになると思う。
- 小学校6年間、一緒に勉強した仲間・友達・子供達には、共有した時間の方が、将来必ずいい経験として生きてくる。
- 安心、安全、これは何か起きてから対策を行って来ているのが現状ですが、何か起きてからではなく、やり過ぎぐらいが丁度いい。

## XIその他

- ・全てにおいて子ども目線で建ててもらいたい。
- ・新しくお友達や先生が増え、人数もかなり増えるので、活気がある学校になると思います。
- ・日本には無いバリアフリー学校。身体的ハンディキャップを持っている子ども達も健康な子ども達も一緒に分け隔てなく勉強を受け、体育の授業を受けられる。屋内プール。
- ・せっかくの校舎建て直しの機会なので、とことん安全で過ごせる箱物を作ってください。
- ・けやき台小は古くて耐震が心配。
- ・若葉小を残そうと活動されている方もいるが、大規模になる心配よりも校舎の老朽化が気になる。
- ・新校舎建設が遅れないようにして貰いたい。
- ・手抜き工事のないように。
- ・早めに工事を終わらせて欲しい。せめて現在2年生なので、6年生の三学期くらいから、新校舎で過ごせるようにしたい。
- ・子ども達が混乱しないよう、それぞれの学校の特徴、特色を残して頂きたい。
- ・外観やデザインにお金を掛けるのではなく、教室など子ども達の使う部分にお金を掛けて欲しい。
- ・新築なので、立川市の学校を代表するような立派な建物を作って欲しい。
- ・珍しいデザインは長寿命学校に適さないのでは。
- ・デザイン性などは実用面で支障が出ないようにして貰いたい。学校としての機能を重視して欲しい。
- ・子ども達が毎日学校へ通うのが楽しいと思えるような学校になって欲しい。
- ・やがて大人になる子ども達のためにも良い学校を作ってあげて下さい。
- ・若葉の良さ、けやきの良さ、それぞれの良さを生かしつつ若葉町が温かく一つになる、そのような学校になったらいいなと思います。
- ・校歌について、二校の良い所を取り入れて欲しい。
- ・子ども一人一人が大切にされる学校。そのために環境的なゆとり、先生方が授業しやすい、一人一人を把握しやすい人数的なゆとりを強く求めます。
- ・子ども達が元気に安全に通い続けられるように若葉町ならではの広い土地を子どもが活用できるようにして欲しい。
- ・子ども達それぞれの個性を理解し、協力して過ごすことができる学校。
- ・夏休みも冬休みも校庭で遊べるようにして。
- ・パートタイムの仕事であっても夏休み等、一時的な預かりシステムがあると助かります。
- ・広すぎず、狭すぎずの部屋。
- ・いきなり二つの学校を一つにするのではなく、子ども達に準備する時間を与えてください。
- ・建て替えを行った立川市内の他の小学校が実際に使い始めたら色々な支障がでて、機能面であまり良くないとの評価を聞いた。
- ・現校舎は50年前のものなので、近年は新しいコンセプトは色々提示されているので（壁なし教室とか）実験的な取り組みもいいかもしれない。
- ・合併反対の声も多かったのだから、とことん子どものためになる学校を追及するべきである。
- ・学校は学習する場であり、社会生活を学ぶ場であるため。
- ・バリアフリーは、健常者を主体として考えている事ばかりである。国内・外国の学校の作り方を見習ってはどうか？
- ・新しい技術も増えてたろうから、より安全な建物づくりを期待しています。
- ・子ども達が多くの時間を過ごす学校が一番安全な場所に。ハザードマップでは、危険な立地なので、せめて建物だけでも防火対策も。
- ・小学校に上がると親の目が届きにくいので、安全で安心な学校だと安心できる。
- ・親も子も、安心して通学できる、送り出せる。
- ・学校は、子ども達中心の活動を考え、安全を最優先して考えること。
- ・仮校舎の問題狭いや通学路など。
- ・毎日のことなので、学習環境が良いか悪いかはとても重要。
- ・いつ災害が起こるかかわからないので、しっかり備える必要がある。
- ・学校が安心、安全と思われないと、保護者が心配する。
- ・子どもさん達の安全、安心が第一。
- ・住民の大多数の要望を無視した統合で、できる学校は、本当にうまくいくのかが心配です。
- ・交通の関係で若小は本当に適している場所と考える所です。
- ・場所的に特に環境の良さが他の場所よりの当とも考える。
- ・優しい学校、楽しい学校。
- ・保健室の先生は優しい人が良い。
- ・夢のようなものより、現実的なものが良い。
- ・楽しくて、喧嘩が無いような学校。
- ・けやわか小と言う名前にして欲しい。
- ・のびよ校歌は無くさないで欲しい。
- ・けやき台小、若葉小をそれぞれ改築なら賛成です。
- ・6年生までけやき台小に残っていたい。
- ・本当は、若葉とけやきを一緒にして欲しくない。
- ・なぜ、若葉小つぶすか？
- ・今のままの校舎がいいので、もう少し綺麗になったら嬉しいです。
- ・くるりんが来て欲しい。
- ・ノーボーダーどんな子どもにも教育を、皆と一緒に学ぶ権利を。
- ・どっかの学校で組体操してたら、怪我をしたって言うけど、けやき台小は誰も怪我をしていないんだからやった方が良くと思う。
- ・新校舎に入る学生にアンケートを取るのが有効だと思います。
- ・高齢者が優遇され過ぎではないのか？高齢者よりも若い世代に向けて新学校を作って欲しい。
- ・今よりも良い環境を作りたい。

資-2 子どもたちの新しい校舎のイメージ（抜粋）





### 7-3 視察校報告（川崎市立はるひ野小学校・はるひ野中学校）

#### (1) 神奈川県川崎市立はるひ野小学校・はるひ野中学校視察報告

（平成 28 年 10 月 11 日）



#### 【概要】

- ・校地面積：30,682 m<sup>2</sup>（うち 7,894 m<sup>2</sup>は増築に伴い追加）
- ・延床面積：20,539 m<sup>2</sup>（うち 4,800 m<sup>2</sup>は平成 26 年に増築）
- ・構造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
- ・階数：地上 4 階
- ・学校規模：[小] 普 通－32 学級（1057 人）  
特別支援－ 6 学級（20 人）  
[中] 普 通－ 9 学級（307 人）  
特別支援－ 3 学級（4 人）

#### ○小学部：低学年用教室



- ・教室の一面に設けられた小空間「パオ」  
クラスのミニステージとして活用される



- ・教室前のオープンスペースを利用して  
作業する児童たち

○中学部：教科教室



- ・教科教室（奥）とホームベース（手前）は、一体的な使用も可能となっている

○多目的ホール（ランチルーム）



- ・1階の多目的ホールは、異学年交流や地域交流のためのスペースとして設けており、児童生徒や地域の人々がランチにも利用している

○地域交流センター



- ・コミュニティガーデンに面した大きな開口のある多目的ホール



- ・地域の会議や打合わせに使用できるミーティングルームとサロン

○メディアセンター



- ・児童生徒が利用しやすいように、オープンで明るい空間としている



- ・図書館とPC室が隣接しており、調べ学習を行いやすい

○展示・発表スペース



・ 小学校低学年の教室前の展示



・ 中庭に面した幅の広い階段も、一つのステージとして使うことができる

○校務センター



・ 教職員の休憩スペース

○視察を終えての検討委員の感想

- ・ 教室前に配置されている、オープンスペースでは、学年みんなが集まって歌の練習や可動式の机を持ってきてグループ学習を行っているほか、課題別の学習などにも利用しているなど学習効果も高いとの説明を受けた。これからの学校はこのようなスペースも必要なのかなと思った。
- ・ 一人ひとりと向き合って面談等ができる、小さな部屋が配置されているのが良い。特別支援が必要な子どもの対応でも重要であると思う。
- ・ 視察先の学校は、小学校と中学校が一緒になっており、兄弟で登校してくる子もいるようで小中の連携が良く、中一ギャップがないのではないかと。小学生と中学生が一緒にいることのメリットは大きいと思う。
- ・ 図書室が広く、開放的で素敵である。新校舎にもこのような図書室を設ければ、本が好きな子どもが増えるのではないかとと思う。
- ・ 地域交流センターが広く立派だった。新校舎にも少しこのような機能のある部屋ができると良いと思う。

## 資-4 新校舎建設マスタープラン策定までの検討経過

### (1) 新校舎建設マスタープラン検討委員会

新校舎建設マスタープラン検討委員会は、学識者や地域団体等が推薦する方、公募市民らで委員を構成し、平成28年8月に発足した。平成28年8月から平成29年3月までに計9回の会議を開催した。

#### ① 新校舎建設マスタープラン検討委員会委員名簿

(敬称略/◎委員長、○副委員長)

所属	役職等	氏名	人数
学識者	(株)教育環境研究所所長	◎長澤 悟	2名
	東洋大学ライフデザイン学部准教授	菅原 麻衣子	
地域団体等が推薦する方	けやき台小学校PTA会長	小林 三貴子	7名
	若葉小学校PTA会長	佐藤 謙二	
	(青少年健全若葉町地区委員会推薦)	須崎 健	
	けやき台小学校避難所運営委員会 (ホリデースクール委員長推薦)	白井 俊明	
	若葉町子ども会育成者連絡協議会 (同連絡協議会会長推薦)	星野 恵子	
	けやき台団地自治会会長 (自治連若葉町支部支部長推薦)	大野 滋生	
	自治連若葉町支部支部長 若葉町団地自治会会長	藤縄 初男	
公募市民		山田 拓男	2名
		堀江 広美	
学校長等	教育部長	栗原 寛	6名
	けやき台小学校校長	吉岡 一彦	
	けやき台小学校副校長	宮城 恵子	
	若葉小学校校長	飯塚 信也	
	若葉小学校副校長	梅津 靖子	
	第九中学校校長	○富永 立人	
合計			17名

## ②行政側説明員

所属・職	氏名
行政管理部施設課長	小林 誠二
子ども家庭部子ども育成課長	神崎 恵子
教育部学務課長	田村 信行
教育部指導課長	小瀬 和彦
教育部教育支援課長	矢ノ口 美穂

## ③事務局

所属・職	氏名
教育部教育総務課長	庄司 康洋
教育部教育総務課学校施設保全担任主査	中島 弘陽

## ④検討経過

	日程	主な検討内容
第1回	平成28年 8月17日(水)	・今後のスケジュールや検討の進め方 ・新校舎に期待すること
第2回	9月21日(水)	・新校舎の配置イメージ ・必要な教室等の構成
第3回	10月11日(火)	・川崎市立はるひ野小学校視察
第4回	10月19日(水)	・アンケートの集計結果 ・新校舎の理念
第5回	11月18日(金)	・学校づくりの理念 ・コンセプト
第6回	12月21日(水)	・地域開放ゾーン ・北側道路からのアプローチ ・防災拠点 ・バリアフリー
第7回	平成29年 1月30日(月)	・教育環境の整備 ・生活空間の整備
第8回	2月16日(木)	・平面計画、防災計画
第9回	3月8日(水)	・課題整理、まとめ

※10月11日に午後2時から4時まで実施した視察以外は、いずれも検討委員会の開催時間は午後6時から8時までで、開催場所はけやき台小学校。

**(2) アンケート**

平成 28 年 9 月に、けやき台小学校と若葉小学校の児童及び保護者、若葉町の自治会長を対象に実施した。

**(3) ワークショップ**

両校の保護者を対象に、平成 28 年 10 月 30 日（日）の午前 10 時から正午までけやき台小学校で開催した（参加者は 4 人）。

**(4) 説明会**

両校の保護者、近隣にお住いの方などを対象に、下記の通り説明会を開催した。

日程	会場	参加者
1 月 27 日（金）午後 7 時～9 時	けやき台小学校	20 人
1 月 28 日（土）午前 10 時～正午	若葉小学校	20 人
合計（延べ人数）		40 人

**(5) 学校ヒアリング**

若葉小学校の教職員を対象として 10 月 7 日（木）に、けやき台小学校の教職員を対象として 10 月 12 日（水）にそれぞれヒアリングを行った。





立川市新校舎建設マスタープラン

平成 29 年 3 月

作成 立川市教育委員会教育部教育総務課

〒190-8666 東京都立川市泉町 1156-9

電 話 042-523-2111 (内線 2474)

F A X 042-528-1204